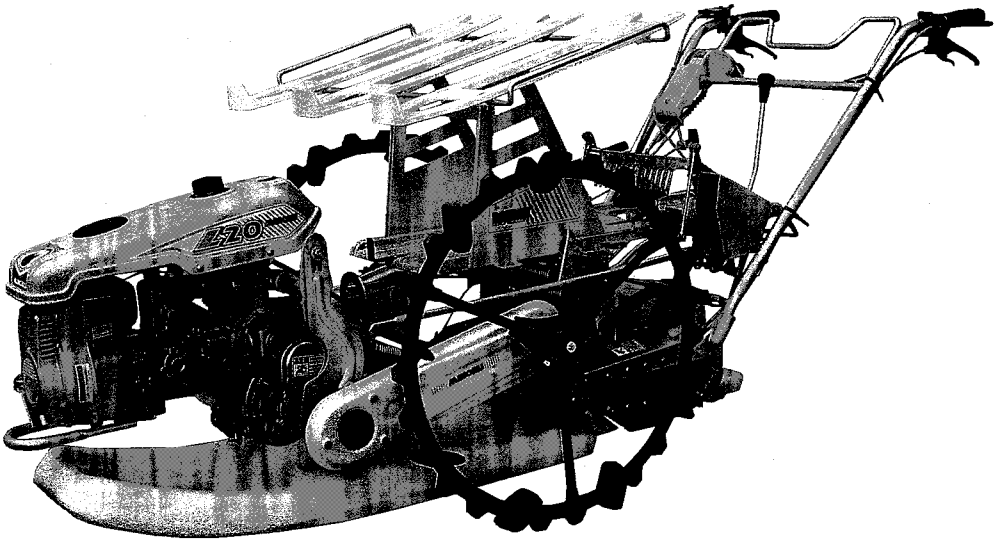
使用する前に必ずよく読んで正しく使いましょう

共立 土付成苗田植機

L-20

取扱説明書



株式会社やまびこ

乗用管理機重要安全ポイント

1. ほ場まで移動するときは，トラック等に載せて運搬します。

2. 燃料を補給するときは，火気厳禁します。
   エンジンを停止し冷却状態で行ないます。

3. トラックへ積み・降ろしするときは，
   強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミを使用します。
   スピードを落としアユミ板に直角に上り，下りします。
   上り，下りの途中でサイドクラッチレバーを握りません。

4. エンジンを始動するときは，植付クラッチレバーを切り，
   主変速レバーを「中立」にします。

5. 田植機を移動するときは，スピードを落し路肩に注意します。

6. ほ場へ出入りするときは，スピードを落し畦に直角に走行します。

7. 田植機を点検・調整するときは，
   安全な場所で，必ずエンジンを止めます。

8. 補助者と共同作業を行うときは，合図をし安全を確認します。

この田植機をお使いになるときは復唱して下さい。

安全に作業して頂くため，ぜひ守って頂きたい重要安全ポイントは上記の通りですが，これ以外にも本文の中で安全上ぜひ守って頂きたい事項を⚠を付けて説明しております。よくお読み頂いて，必ず守って頂くようお願い致します。

はじめに

●この度は，本田植機をお買いあげいただき，まことにありがとうございました。

●この田植機は，水稲の田植えをする為のものであって，他の用途の為に使用しないでください。

●この取扱説明書は，田植機を使用する際に是非，守っていただきたい安全作業に関する基礎的事項，田植機を適切な状態で使っていただくための正しい運転・調整・整備に関する技術的事項を中心に構成しております。

●田植機を初めて運転される時はもちろん，日頃の運転・取扱いの前にも初心に立ち返り入念に読み，充分理解され安全・確実な作業を心がけてください。

●この取扱説明書は，いつでも取り出して読めるように保管してください。

●田植機を貸与または譲渡される場合は，相手の方に取扱説明書の内容を充分理解していただき，この取扱説明書を田植機に添付してお渡しください。

●この取扱説明書を紛失または損傷された場合は，速やかにお買いあげいただいた，販売店・農協（JA）にご注文ください。

●なお，品質・性能向上あるいは安全上，使用部品の変更を行うことがあります。
その際には，本書の内容および写真・イラストなどの一部が，本田植機と一致しない場合がありますので，ご了承ください。

●もし，おわかりにならない点がございましたら，ご遠慮なくお買いあげいただいた，販売店・農協（JA）にご相談ください。

●取扱説明書の中の ⚠ 重要 表示は，下記のように安全上，取扱上の重要なことを示しております。よくお読みいただき，必ず守っていただくようお願いいたします。

表　示	重　要　度
⚠危険	その警告に従わなかった場合，死亡または重傷を負うことになるものを示しております。
⚠警告	その警告に従わなかった場合，死亡または重傷を負う危険性があるものを示しております。
⚠注意	その警告に従わなかった場合，ケガを負う恐れのあるものを示しております。
重要	商品の性能を発揮させるための注意事項を説明しております。 よく読んで商品の性能を最大限発揮してご使用ください。

目　次

安全のポイント …… 1

安全な作業をするために …… 1
安全表示ラベルについて …… 9

保証とサービスについて …… 10

使用上のポイント …… 11

苗について …… 11
取扱いについて …… 12
注油 …… 13
苗セット …… 13
植傷みの注意 …… 14
植付部の水洗い …… 14

各部の名称とはたらき …… 15

各部の名称 …… 15
レバー関係の取扱い …… 16

作業前の点検 …… 19

給油、注油箇所の点検と補給 …… 19

運転のしかた …… 22

エンジンの始動と停止のしかた …… 22
発進、停止のしかた …… 23
移動、運搬のしかた …… 24
ほ場への出入のしかた …… 26

作業のしかた …… 27

ほ場と苗の準備 …… 27
　ほ場の準備 …… 27
　苗の準備 …… 28
植付作業前の準備 …… 29
　植付株間の決めかた …… 29
　株間調節のしかた …… 29
　植付本数（1枠株数）の調節のしかた …… 30
　予備苗台上の調節のしかた …… 30

植付深さの調節のしかた…… 31
ハンドル高さの調節のしかた…… 31
油圧感度の調節のしかた…… 31
植付作業の手順…… 32
スタートと植え進みかた…… 32
枕地のとりかた…… 34
旋回のしかた…… 34
苗の補給のしかた…… 35
残り苗の取り出しかた…… 35
安全クラッチが作動したとき…… 36
植付部の水洗い…… 37

点検整備 …… 38

定期的な点検整備…… 38
点検整備一覧表…… 38
エンジンオイルの交換…… 39
エアークリーナーの清掃…… 39
燃料カップの清掃…… 40
燃料ホースの点検・交換…… 40
点火プラグの清掃…… 40
減速ミッションオイルの給油…… 41
植付ミッションオイルの給油…… 41
車輪ケースオイルの給油…… 42
サイドクラッチワイヤーの点検…… 42
植付クラッチワイヤーの点検…… 43
長期格納時の手入れ…… 44

不調時の処置 …… 46

農作業を安全に行うために …… 49

サービス資料 …… 52

主要諸元…… 52
標準付属品…… 53
主な消耗部品一覧表…… 54
注文部品一覧表…… 56

索引 …… 57

安全のポイント

本章では，田植機を効率よく安全にお使い頂くために，必ず守っていただきたい事項を説明しております。充分に熟読されて，安全な作業を行ってください。

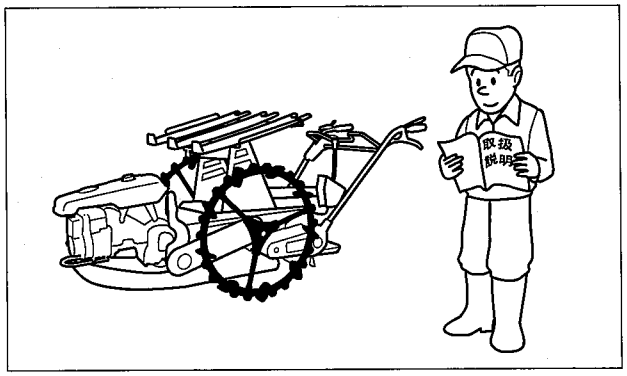
この田植機で，一般道路を走行する時は充分注意してください。移動する場合は，トラックなどに載せて運搬してください。

安全な作業をするために

■運転者の条件

(1)はじめに

作業をする前に，この「取扱説明書」をよく読むことから始めてください。これが安全に快適に作業をするための第一歩です。

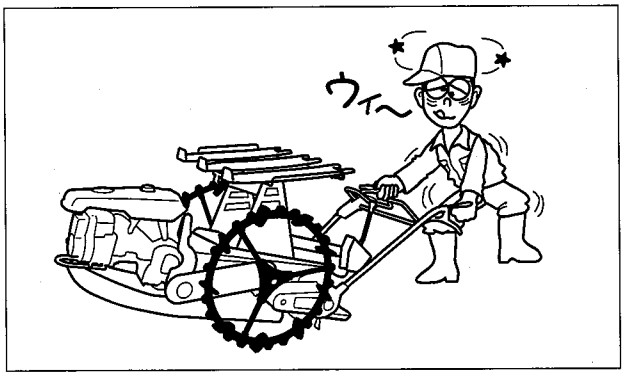


(2)体調について

飲酒時や過労ぎみの時は，作業をしてはいけません。

この様な時作業を行うと，誤操作などで思わぬ事故を引き起こします。作業する時は，必ず心身とも健康な状態で行ってください。

妊娠している人，18才未満の人は運転しないでください。



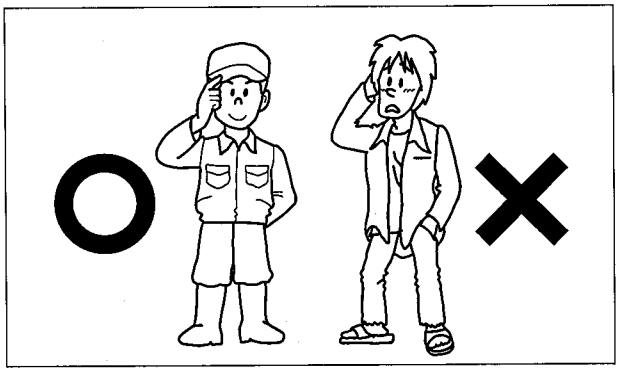
(3)服装について

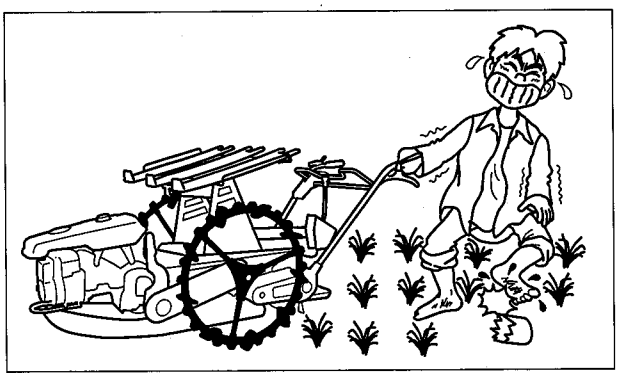
作業する時は，作業に合わせた服装をしてください。

服装が悪いと，衣服が回転部等に巻き込まれたりして大変危険です。

また，裸足での作業は絶対にしないでください。

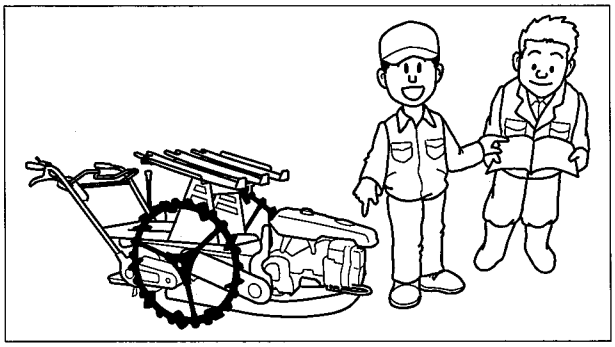
田植長靴か足袋で作業してください。守らなかった場合，足をケガする恐れがあり危険です。





(4)人に田植機を貸す時は

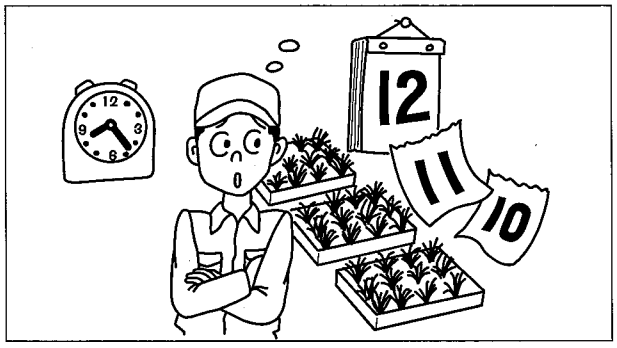
田植機を貸す時は，取扱の方法をよく説明し，使用前に『取扱説明書』を熟読する様に指導してください。
借りた人が，田植機の運転に不慣れなため，思わぬ事故を引き起こすことがあります。



■作業を開始する前に

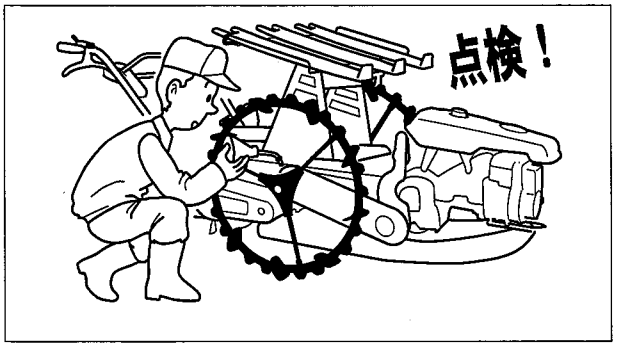
(1)無理のない作業計画で

無理のないゆとりある作業計画を立てましょう。無理な作業計画は，あせりなどから思わぬ事故を引き起こすことがあります。



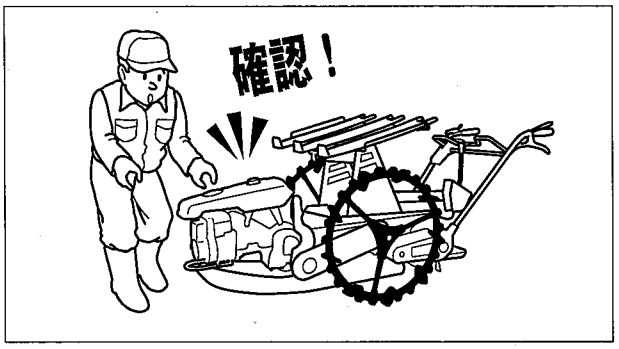
(2)日常点検について

作業する前に，必要な点検・注油は必ず行ってください。特に，植付クラッチやサイドクラッチ，アクセル関係は忘れないでください。
点検を怠ると，クラッチが切れなかったり，田植機が急に動いたりして，移動中や作業中の思わぬ事故につながります。



(3)安全カバー類の装着確認

田植機を運転する前に，安全カバー類が外されたままになっていないか確認しましょう。
外れたまま作業を行うと，危険な部分が露出して大変危険です。



(4)燃料補給時は火気厳禁

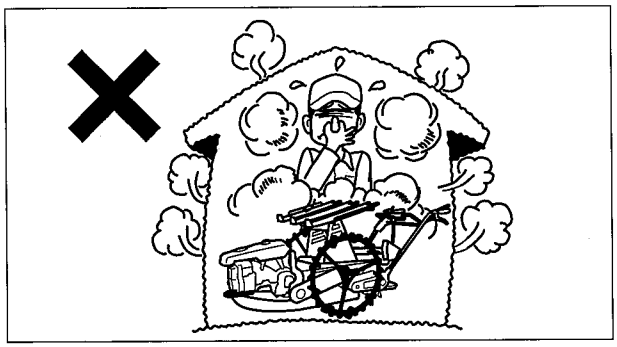
燃料を補給する際は，エンジンを必ず停止し，くわえ煙草などは絶対にしないでください。
田植機の回りに火の気を近づけず，火気厳禁で行ってください。
守らなかった場合，火災の原因になります。



■エンジンの始動と発進

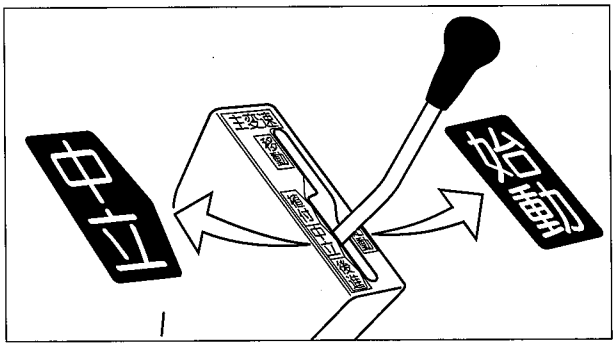
(1)室内では充分に換気を

室内でエンジンを運転する時は，窓や戸を開けて換気を充分にしてください。
換気が悪いと，排気ガス中毒を起こし大変危険です。

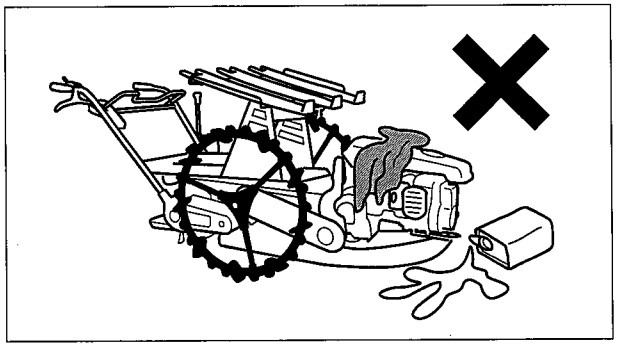


(2)エンジンの始動は、周囲を確認してから

エンジンを始動する時は，植付クラッチレバーを「切」にし，主変速レバーを「中立」にして，周囲の安全を確認してから行ってください。
確認を怠ると，始動できません。

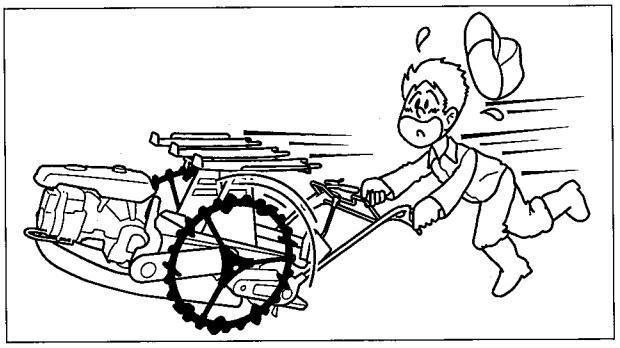


エンジンを始動する場合は，エンジンやマフラー等の上や周りに，ゴミや燃えやすいものが無いことを充分確認してください。
確認を怠ると，火災の原因になります。



(3)急発進は、危険

発進する時は，周囲の安全を確認して，ゆっくり発進してください。急発進すると，思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



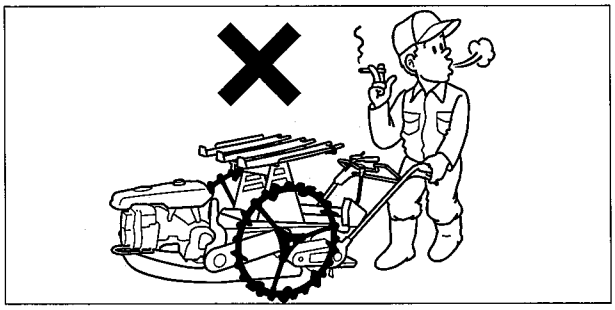
■移動するときの注意

(1)一般道路での注意

この田植機で一般道路を走行する時は充分注意してください。ほ場等への移動は，必ずトラック等に載せて移動してください。

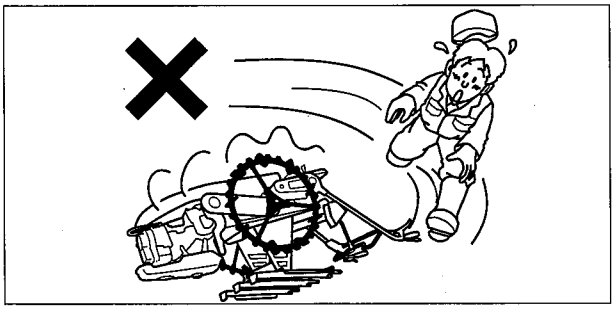
(2)正しい運転姿勢で

ハンドルやサイドクラッチは正しく操作し，わき見運転や片手運転をしてはいけません。接触事故や，転落事故を引き起こす原因になります。

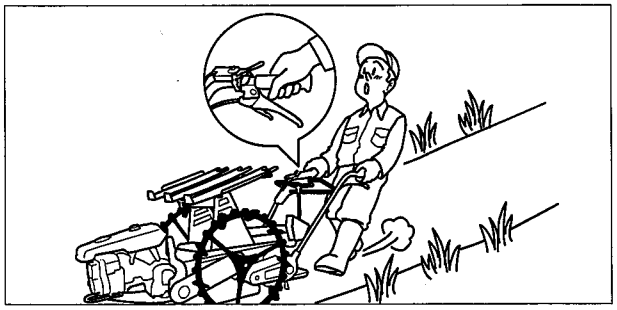


(3)ゆっくり移動

傾斜地では，急な旋回をしないでください。急旋回すると，転倒事故の原因となり大変危険です。また，傾斜地を上る時は，ゆっくりと上り，下る時はエンジンブレーキを利用してゆっくりと下ってください。



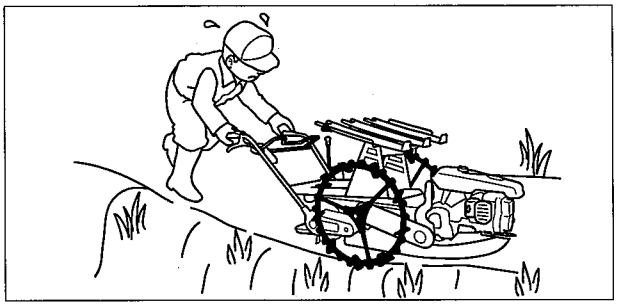
傾斜地移動時には，絶対にサイドクラッチレバーは握らないでください。エンジンブレーキが効かなくなり，スピードが出て大変危険です。



(4)路肩に注意

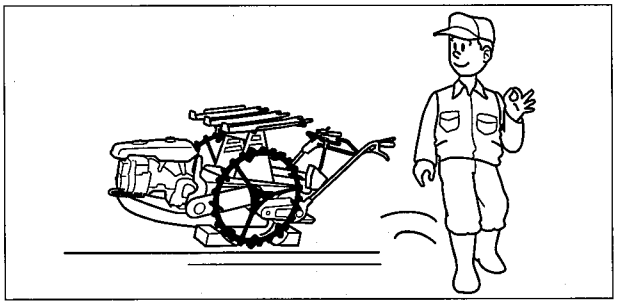
側溝のある場所や，両側が傾斜している場所を通過する時は，速度を落とし充分注意してください。

路肩が崩れて，転倒事故の危険性があります。

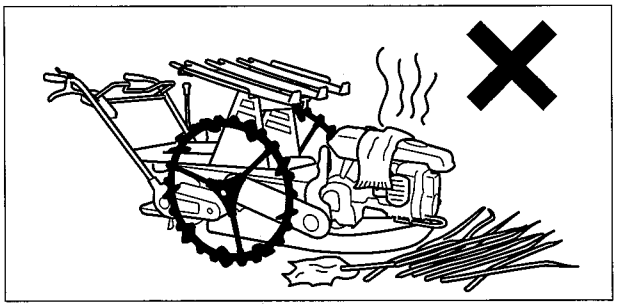


(5)田植機から離れる時は

田植機から離れる時は，エンジンを停止し，車止めをしてください。止める場所は平坦な所で，地面が硬い広い場所を選んでください。田植機が自然に動き出したりして大変危険です。



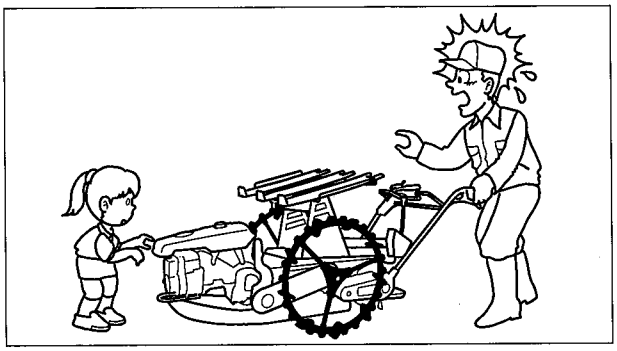
下に草やワラがある場所や，燃えやすい物の近くには田植機を置かないでください。マフラー等の熱で発火する恐れがあり，火災の原因となります。



■作業中の注意

(1)作業中は,周りの人に注意(特に子供)

作業中は，作業者以外の人は田植機に近づかないでください。田植機自体や，作業による飛散物等で，傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。



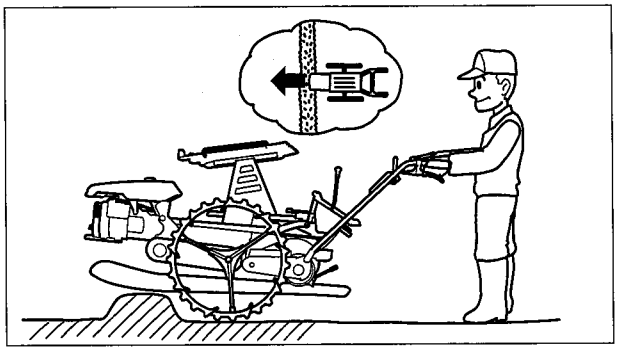
(2)作業開始時は、声かけあって

作業を開始する時は，周囲の安全を確認し，特に補助者と共に作業する時は，声をかけ合って行ってください。
怠ると傷害事故の原因になり大変危険です。



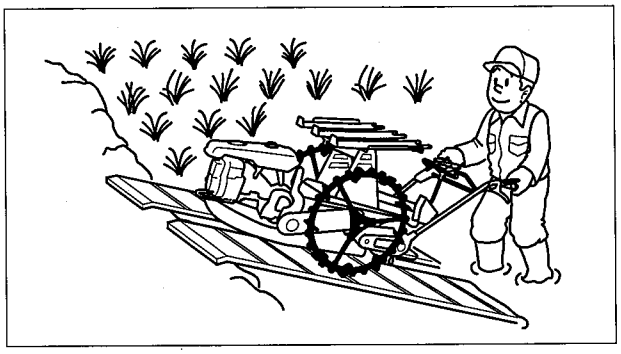
(3)あぜ越え時の注意

あぜを横断する時は，エンジンを低速にして，あぜと直角にゆっくり走行してください。斜めになると，スリップや横転の原因になり大変危険です。



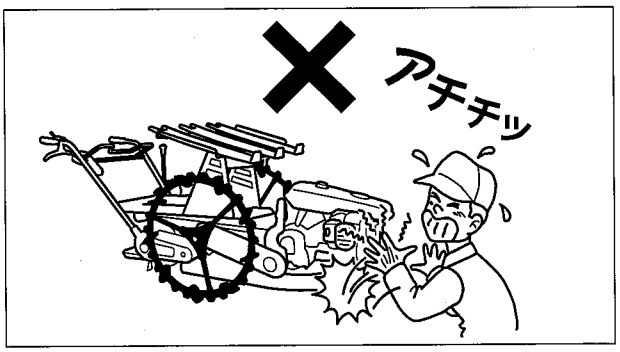
(4)アユミ板を使ってほ場の出入り

あぜの高さが高いほ場では，出入りの際に必ずアユミ板を使用してください。使用しなかった場合は，衝撃で田植機を損傷したり，横転事故の恐れがあり大変危険です。



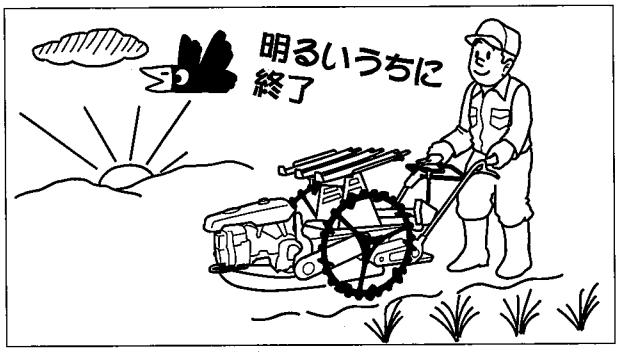
(5)回転部・過熱部には手を触れない

作業中は，植付爪・苗受等の回転部分や，エンジン・マフラー等の過熱部には手を触れないでください。
傷害事故の原因となり大変危険です。



(6)夜間作業の禁止

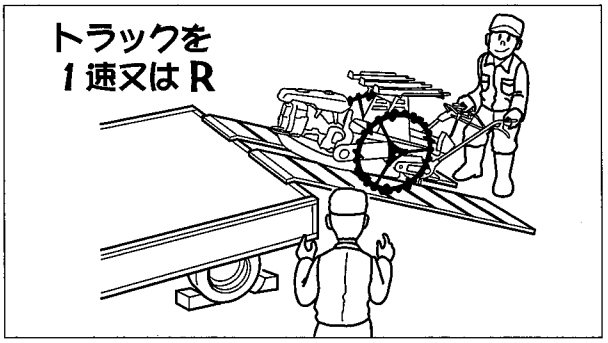
この田植機は，ライトを装備していません。帰り時間等を考慮し，作業は早めに切り上げてください。
暗くなるまで作業をしていると，転落事故等の恐れがあり危険です。



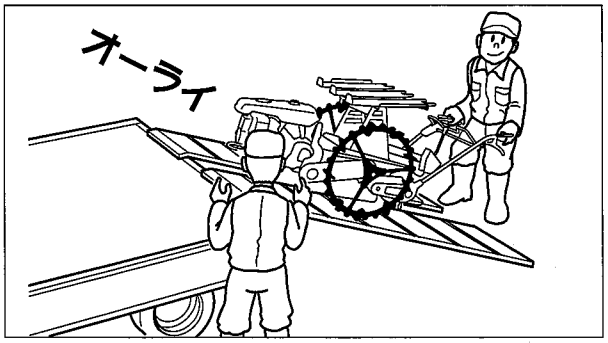
■移動・運搬時の注意

(1)トラックへの積み・降ろし

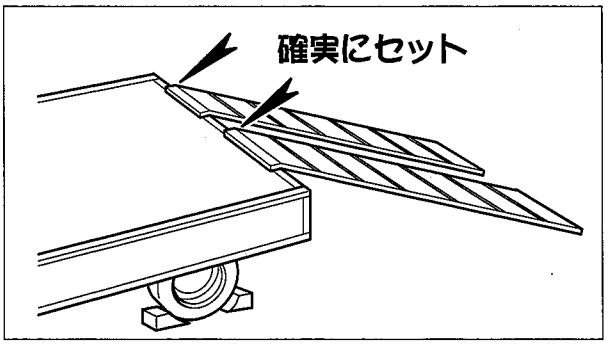
積み・降ろし作業を行う際は，トラックのエンジンを止め，変速を『１速』か『Ｒ』位置にして，駐車ブレーキをかけ，車止めをして行ってください。
これを怠るとトラックが動いて転落事故を引き起こす恐れがあります。



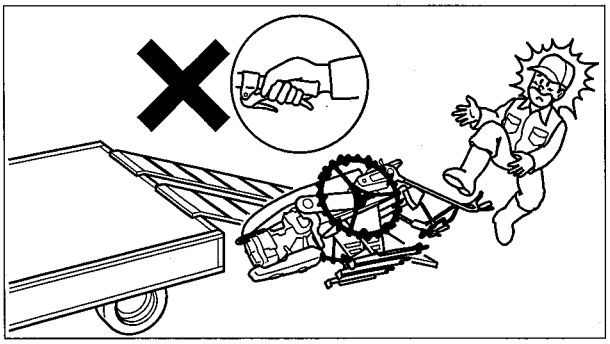
積み・降ろし作業を行う際は，必ず誘導者を付け，周囲の安全を充分確認しながら行ってください。また，田植機の直前や直後には，絶対に立たないでください。
傷害事故の原因になり大変危険です。



積み・降ろし作業を行う際は，強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板を使用してください。
また，アユミ板はトラックの荷台から落ちないように確実にセットしてください。
これを怠ると転落事故の原因になり大変危険です。

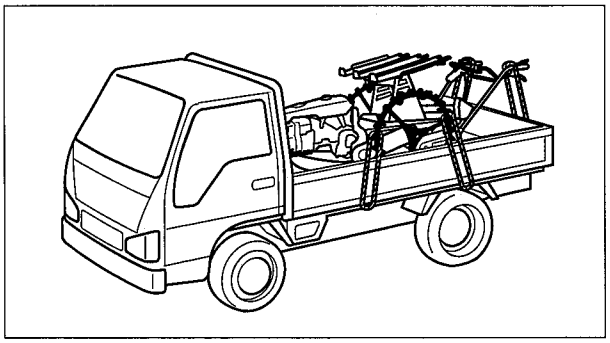


積み・降ろし作業中は，絶対にサイドクラッチレバーを握らないでください。機体が横ブレして転落事故の原因になり大変危険です。



(2)運搬する時

田植機をトラック等で運搬する場合は，必ず田植機本体をロープで荷台に確実に固定してください。運搬中は運転に注意し，不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドル等はしないでください。田植機が移動して大変危険です。
また，長距離を運搬する場合は，安全のために途中でロープのゆるみ等を確認してください。



ジャリ道や凹凸のはげしい道はゆっくり走行してください。

《アユミ板の条件》

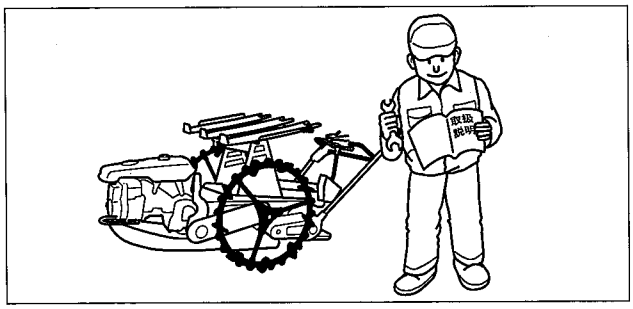
- ●長さ……車の荷台高さの4倍以上
- ●幅……30cm以上
- ●数量……2枚
- ●強度……1枚の強度が250kg以上
- ●すべり止めのあるもの

■点検・整備時の注意

(1)定期点検について

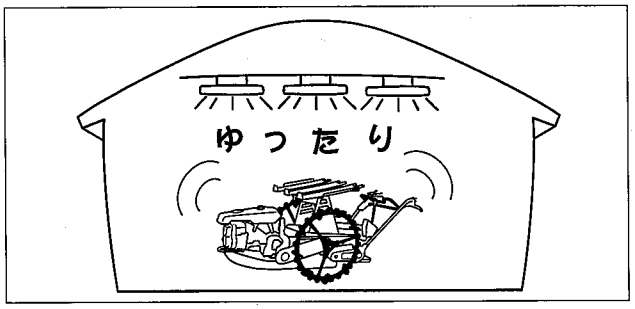
取扱説明書に従って定期点検を実施してください。

これは，田植機を長持ちさせると共に，安全で効率的な作業が行える第一歩です。



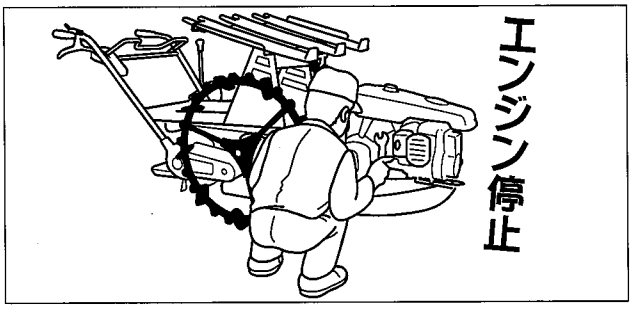
(2)点検・整備は，明るく広い所で

整備・点検は明るく平たんな広い場所で行ってください。これを怠ると思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。



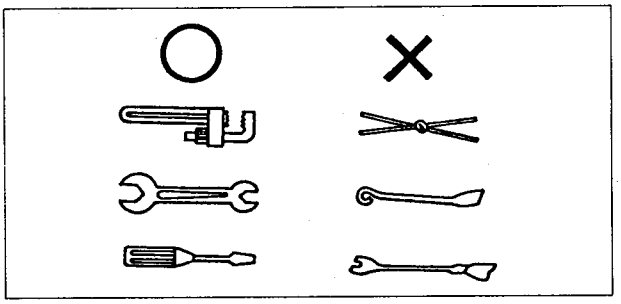
(3)点検・整備は，エンジンを止めて

点検・整備を行う時は，必ずエンジンを停止してから行ってください。怠ると回転部などに手や衣服が巻き込まれて大変危険です。



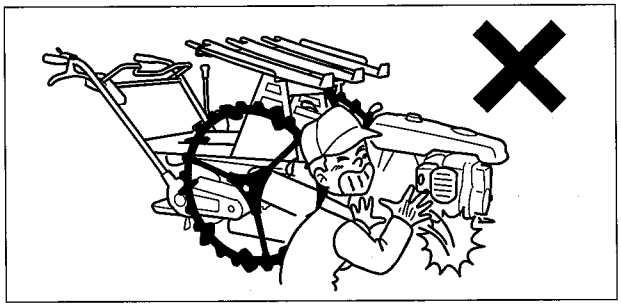
(4)点検・整備は，適正な工具で

点検・整備を行う時は，適正な工具を正しく使用してください。間に合わせの工具で行うと，整備中の傷害事故や整備不良による思わぬ事故を引き起こす恐れがあり大変危険です。



(5)過熱部分は冷めてから

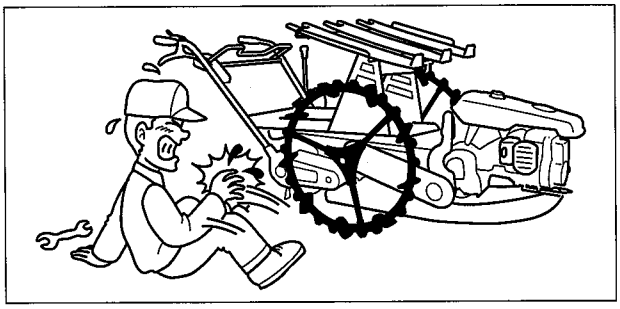
エンジンを止めてすぐには，点検・整備をしないでください。エンジン・マフラー等の過熱部分が完全に冷めてから行ってください。怠ると火傷などの原因になり危険です。



(6)回転部分には注意して

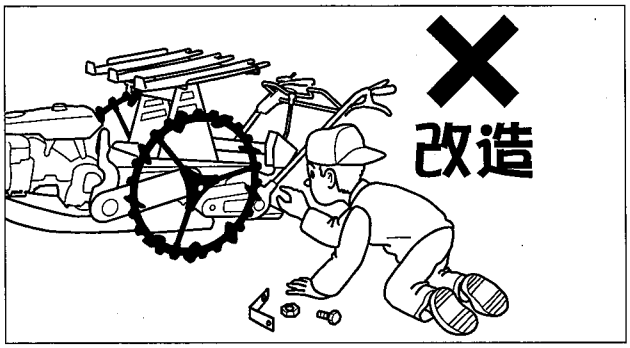
点検・整備を行う場合は，植付爪や苗受などの回転部分に，手や指を挟まれない様に，特に注意してください。

これを怠ると傷害事故の原因になり危険です。



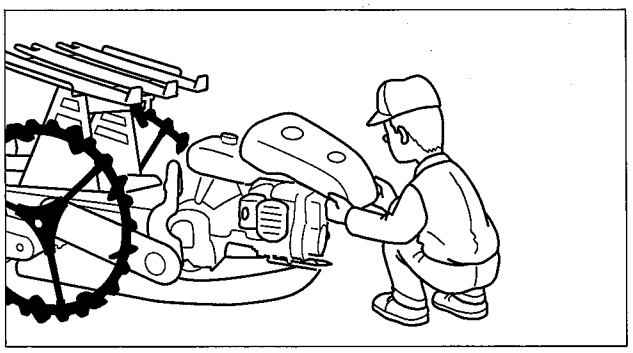
(7)田植機の改造は厳禁

指定以外のアタッチメントの取り付けや改造は，絶対にしないでください。田植機の故障の原因になるばかりでなく，思わぬ事故の原因になり大変危険です。



(8)カバー類は元通りに

点検・整備で取り外した安全カバー類は，必ず元の通りに取り付けてください。外したままで使用しますと，回転部や過熱部がむき出しになり，傷害事故の原因となり大変危険です。

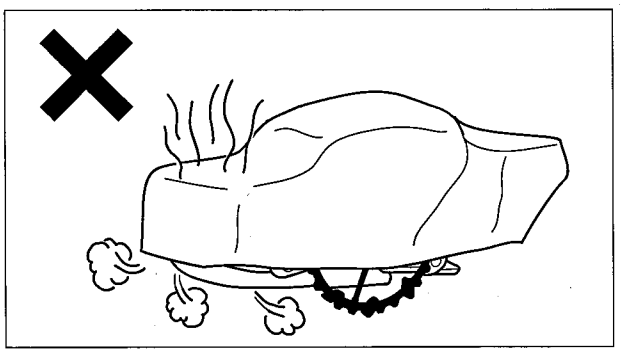


■格納・保管時の注意

(1)シートカバーは田植機が冷えてから

作業が終了してシートカバー等を田植機に掛ける時は，過熱部分が完全に冷えてから行ってください。

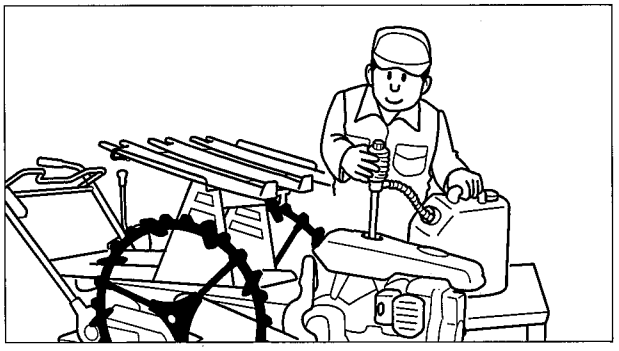
熱いうちにカバー類を掛けると，火災の原因となり大変危険です。



(2)燃料の抜き取り

長期格納する場合は，燃料タンクやキャブレターの燃料を抜き取っておいてください。

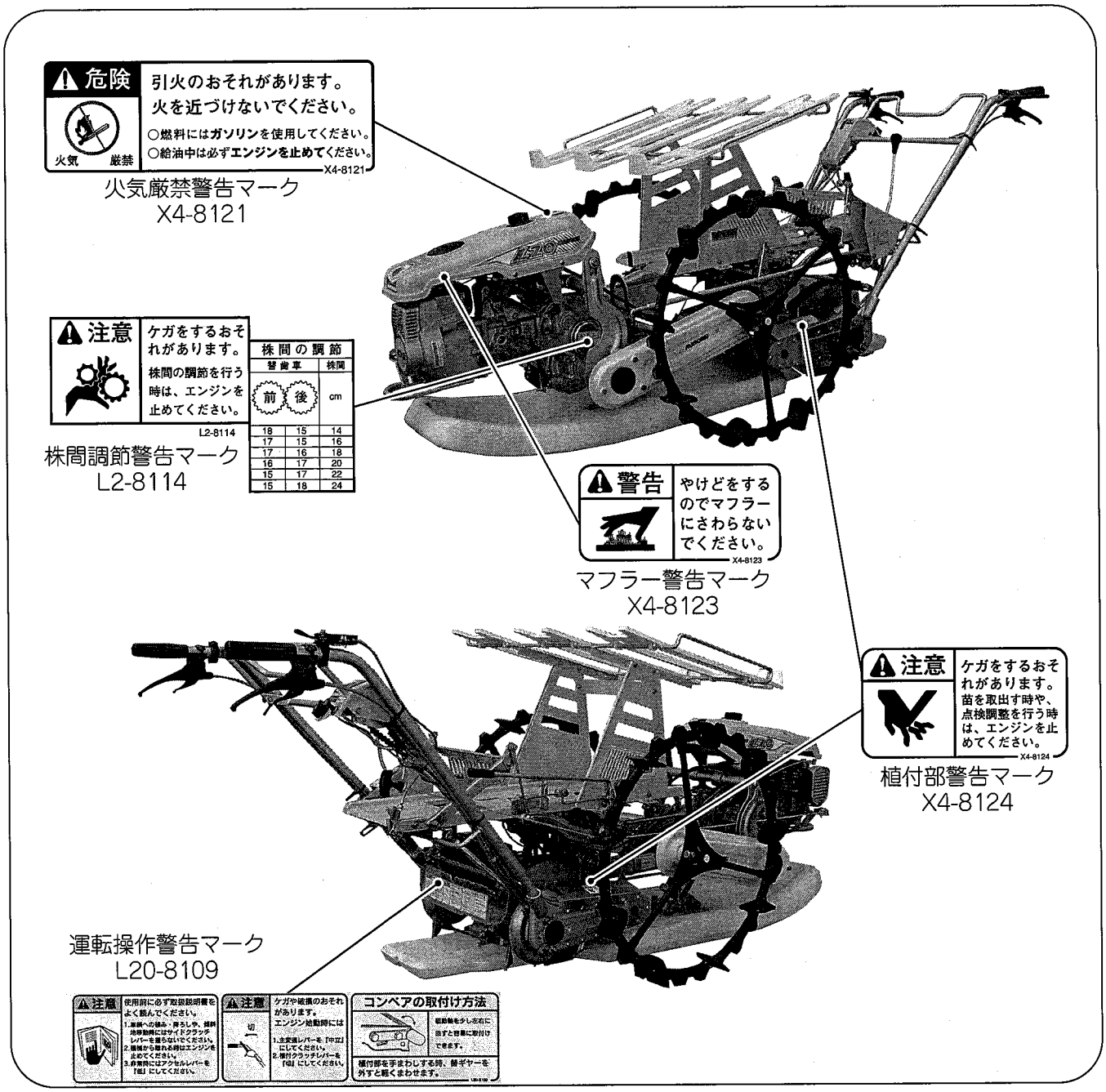
燃料が変質しエンジンの故障の原因になるばかりでなく，引火などで火災の原因になり大変危険です。



安全表示ラベルについて

●本田植機には，安全に作業をしていただくため，安全表示ラベルが貼付してあります。必ずよく読んで，これらの注意に従ってください。
●安全表示ラベルが破損したり，なくなったり読めなくなった場合は，新しいラベルに貼り替えてください。
●泥等が付いた場合は，きれいに拭きとり，いつでも読めるようにしてください。
●安全表示ラベルが貼付してある部品を交換する場合，同時に安全表示ラベルもお買いあげいただいた販売店・農協（JA）へ注文してください。

安全表示ラベル貼付位置



保証とサービスについて

■商品の保証

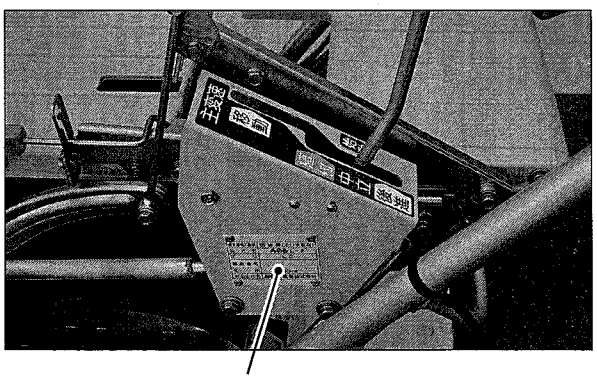
この商品には，保証書が添付されています。詳しくは保証書をご覧ください。

■サービスネット

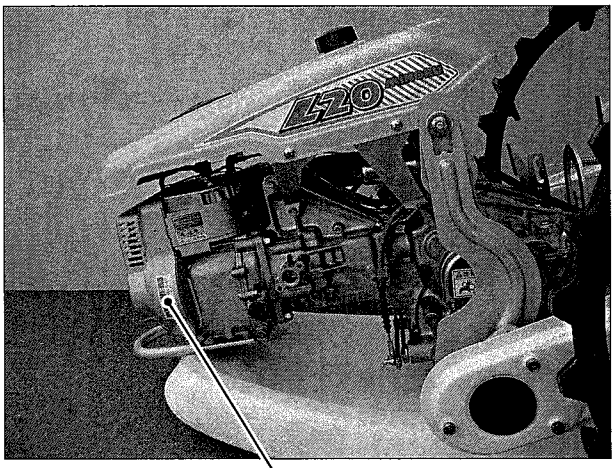
ご使用中の故障やご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買いあげいただいた販売店・農協へお気軽にご相談ください。
その際，　(1)　**型式名，区分および製造番号**　　(2)　**エンジン番号**　　を併せてご連絡ください。

(型式マーク)

農機具の種類	
型　式　名	
区　　分	
製造番号	



型式マーク



エンジン番号

■補修用部品供給年限について

この商品の補修用部品の供給年限（期限）は，製造打ち切り後９年といたします。
ただし，供給年限内であっても，特殊部品につきましては，納期などについてご相談させていただく場合もあります。

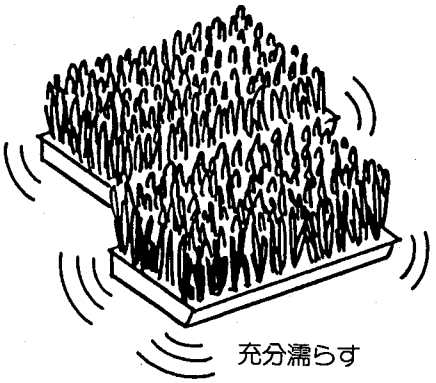
補修用部品の供給は，原則的には，上記の供給年限で終了いたしますが，供給年限経過後であっても，部品供給のご要請があった場合には，納期及び価格についてご相談させていただきます。

使用上のポイント

田植機の故障を防ぎ，植付性能を充分発揮していただくためには，本機の特性を良く知って，それにできるだけ合わせて，苗及びほ場の準備をしていただくと共に田植機の取扱上の注意を守っていただくことが大切です。

苗について

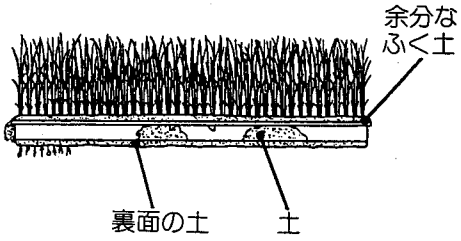
苗は使用する前に必ず畦際などの水のある所につけて，苗土の中に水が充分浸透するまで濡らして植付けをします。
特に根張りのよい苗は，充分つけておきます。



○

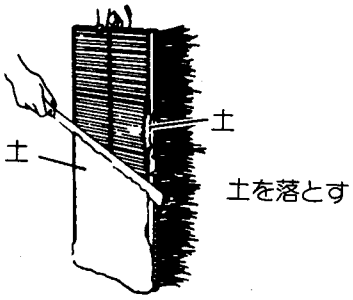
濡らして使用する場合が絶対条件ですが，非常に根張りの悪い場合や，崩れやすい苗土を使用している場合は，濡らし方に注意してください。

苗枠の側面や裏の土をきれいに落としてください。

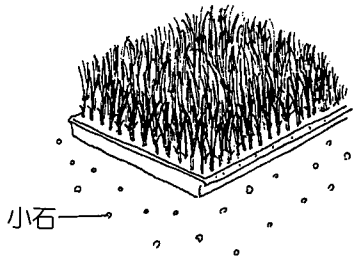


×

土が多く付着していると，苗枠の送りができません。

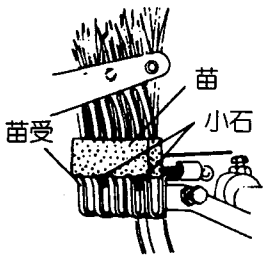


苗を小石のある所には置かないでください。



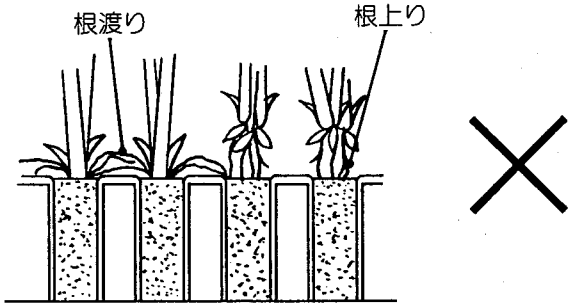
×

苗枠の裏に小石が付着し，苗受やガイド板に噛み込んで植付できなくなることがあります。



使用上のポイント

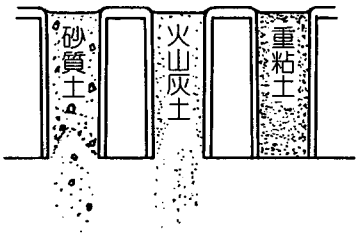
根上りや根渡りさせないように育苗の段階から注意してください。
（詳しくは「育苗の手引き」を参照）



根上り苗や根渡り苗は植付けできないことがあります。

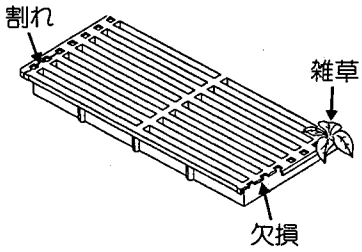
砂質土
火山灰土
重粘土

このような土を使用しますと，短冊苗が崩れたり，苗が植付爪に付着して植付不良となります。



苗土に関しては，販売店又は農協（JA）にご相談ください。

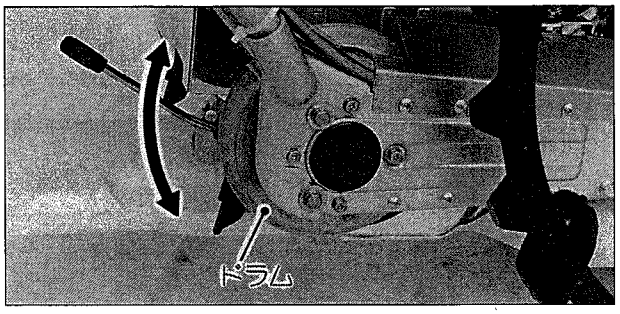
壊れている苗枠は使わないでください。又，角穴に入っている雑草等は取り除いてください。



苗枠の送りが出来ない場合があります。

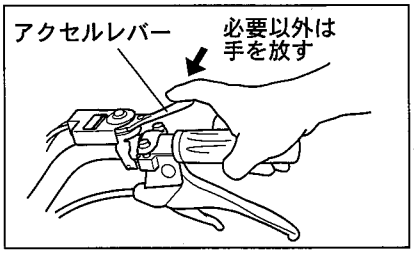
取扱いについて

使用前は必ずドラムを手で回し，コンベアが無理なく回転しているか確認してください。
（替ギヤーを外すと軽く回す事ができます。）



いきなりエンジンで回転すると，保管時駆動軸等にコンベアベルトが巻付いていて，ベルトが破損する場合があります。

必要以外は，アクセルレバーから手を離しておいてください。

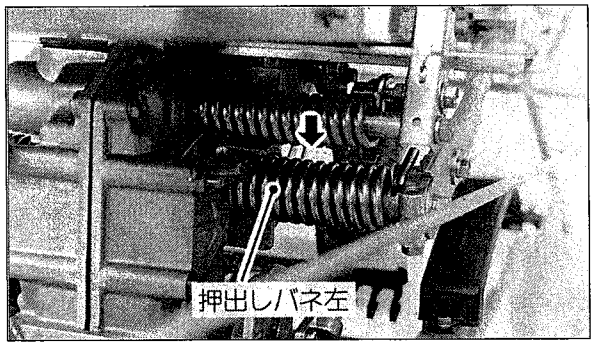


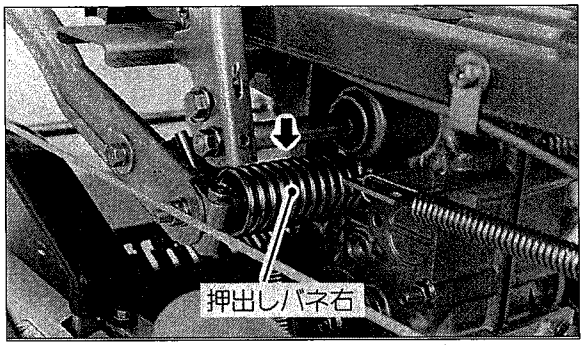
アクセルレバーを持っていると，苗がなくなっても自動的に止まりません。

注油

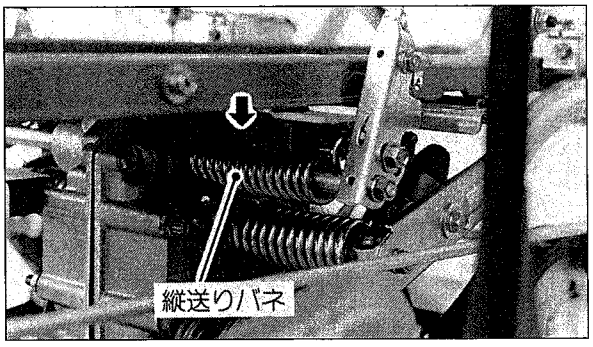
毎日使用前に注油してください。

① 押出しバネ 左，右

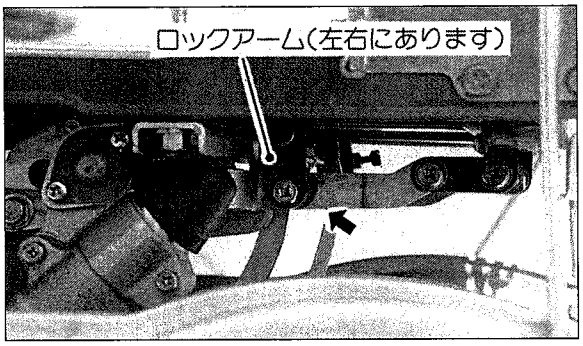




② 縦送りバネ



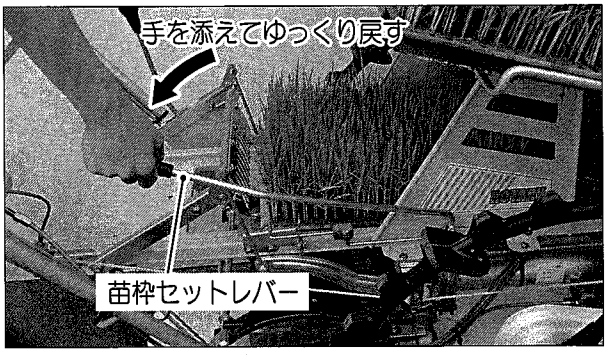
③ ロックアーム



苗セット

苗枠セットレバーは，手を添えてゆっくり戻してください。

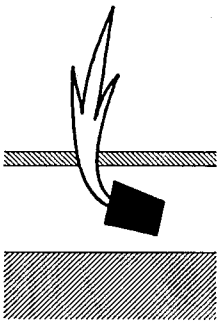
急に離すと苗枠の位置がずれて，押出しが出来なかったり，苗枠が破損する場合があります。



植傷みの注意

●貧弱苗
●根張りが悪い苗
●ガイド板の変形に注意

➡ 高速植付注意



植傷み苗

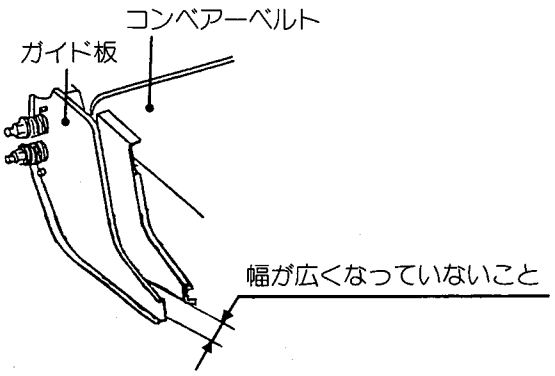
※植付状態を確認しながら，作業をしてください。

植付部の水洗い

苗受，押出し板，コンベアーベルト，ガイド板，苗のせ台等をよく水洗いしてください。また，苗受に小石がかみ込んでいる時は，取り除いてください。

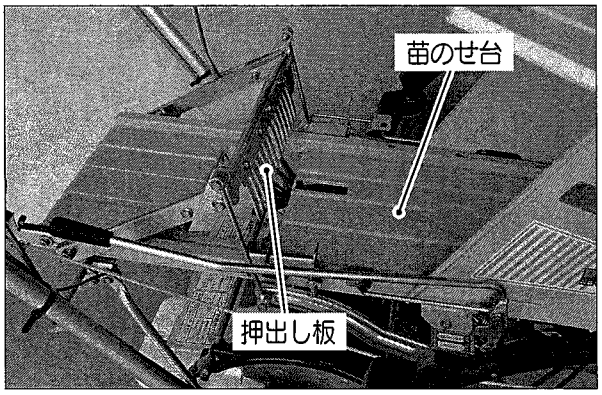


休憩，食事の時，ほ場を変える時などには必ず洗ってください。



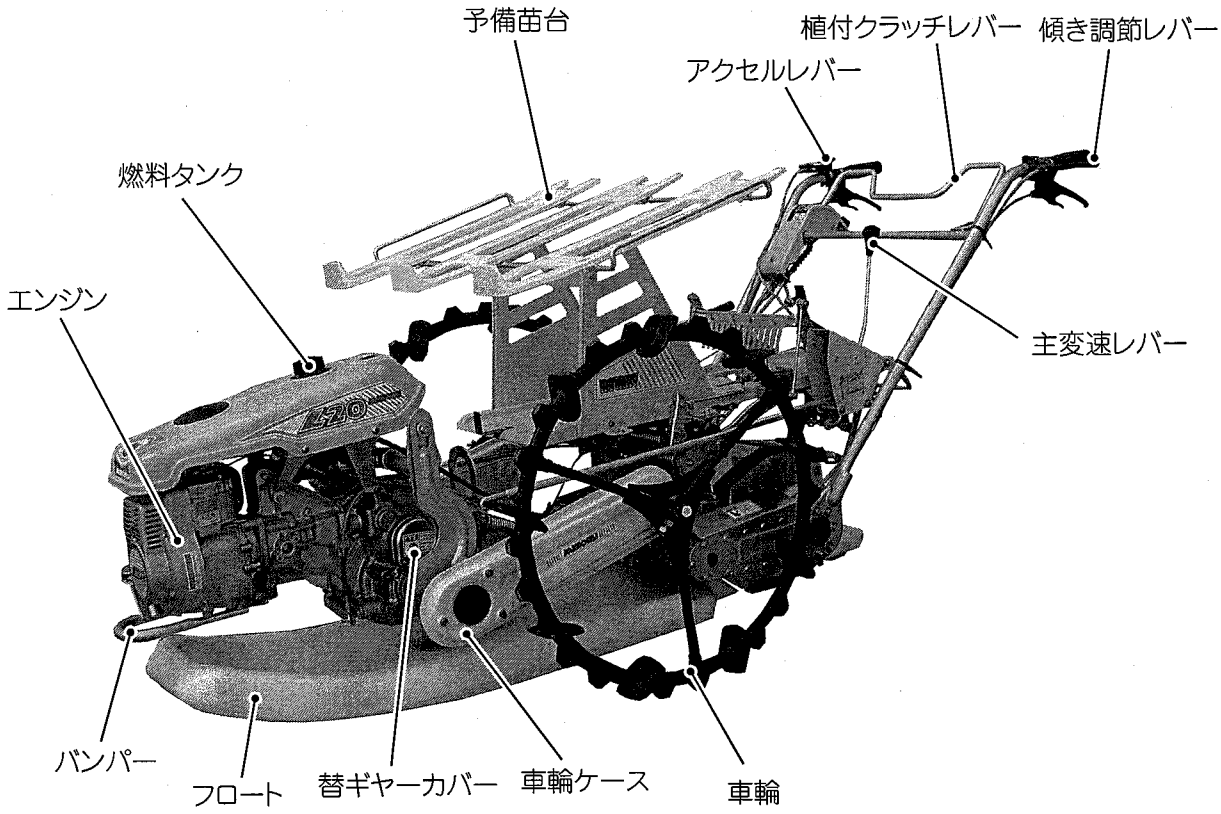
重要

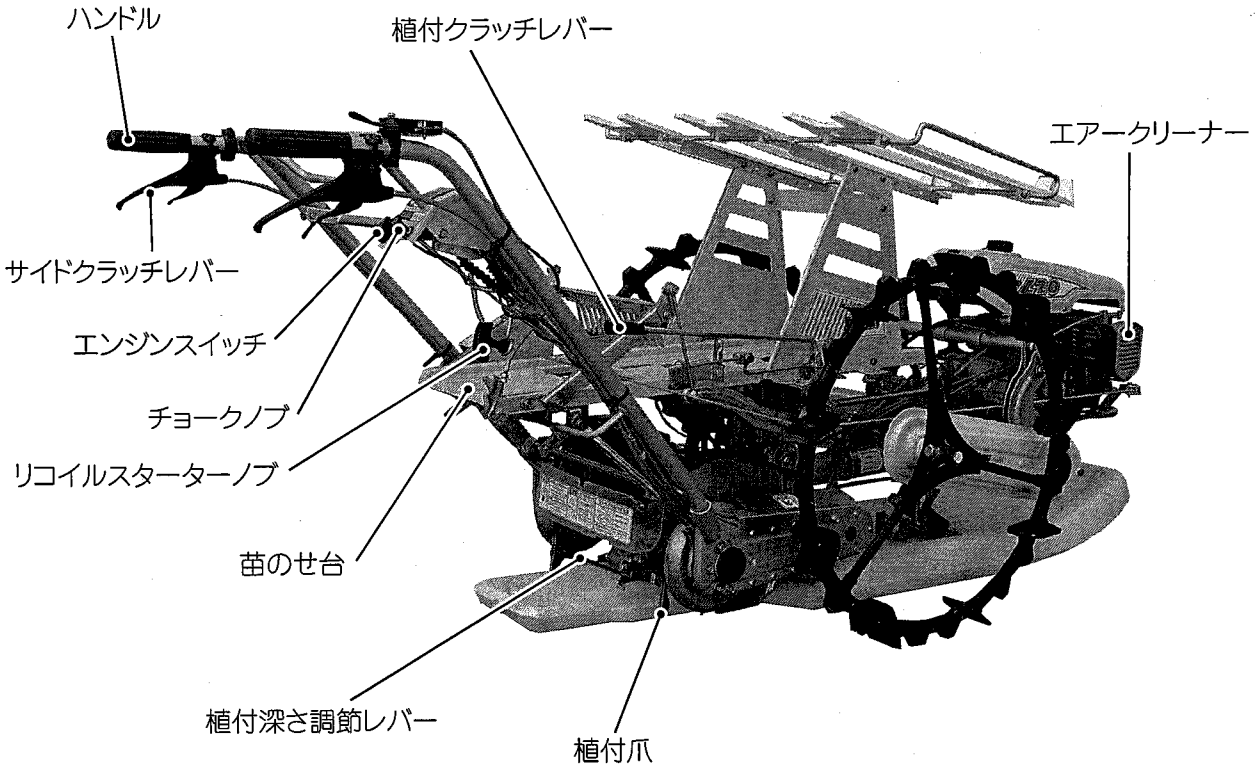
●ガイド板に泥・異物がつまり幅が広くなると植え傷みの原因となるので，きれいに洗ってください。（変形している場合は修正または交換してください）
●コンベアーベルトとガイド板のすき間に，異物がつまっている場合は取り除いてください。



各部の名称とはたらき

各部の名称



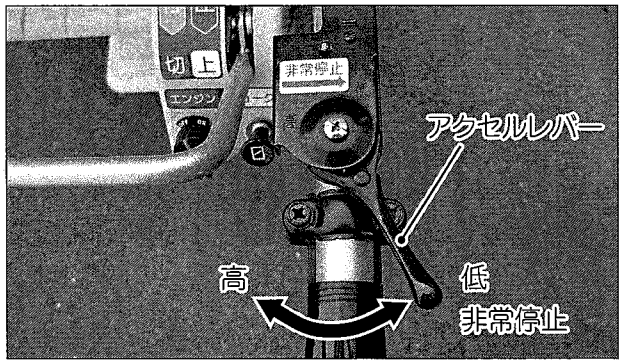


レバー関係の取扱い

■アクセルレバー

低 ……田植機が止まります。(クラッチが切れます)

高 ……田植機が動きます。



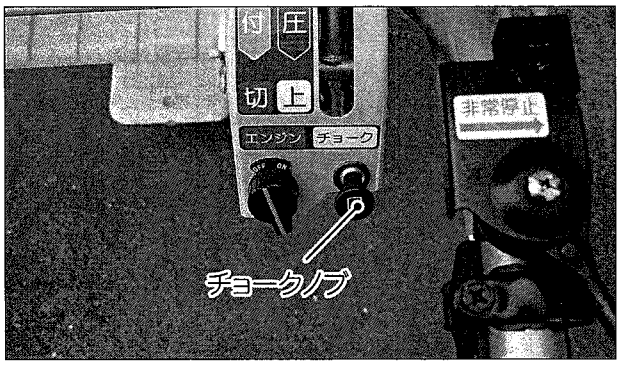
> **⚠注 意**
>
> この田植機は遠心クラッチ式のため，非常時には，アクセルレバーを『低』にしてください。サイドクラッチレバー等での操作は，傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。

■チョークノブ

エンジンが冷えている状態で始動するときは，ノブをいっぱい引いてください。

重要

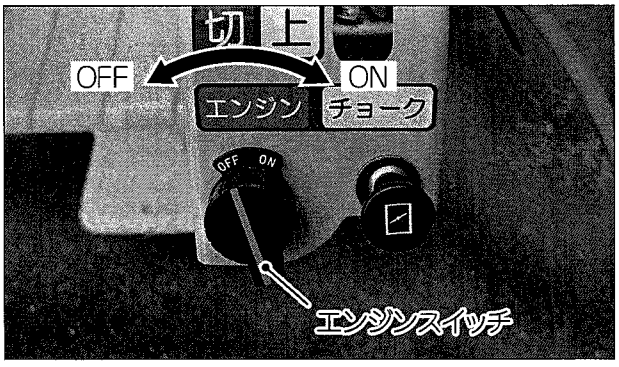
始動時以外は，使用しないでください。



■エンジンスイッチ

O N ……リコイルスターターノブを引けばエンジンが始動します。
(主変速レバー「中立」,植付けクラッチレバー「切」のとき)

O F F ……エンジンが停止します。



> **⚠注 意**
>
> 田植機から離れる時はエンジンを止めてください。怠ると田植機が自然に動きだして大変危険です。

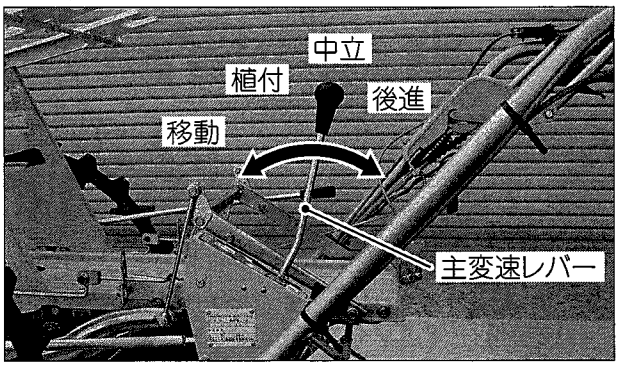
■主変速レバー

移動 ……移動時

植付 ……植付作業時

中立 ……始動時

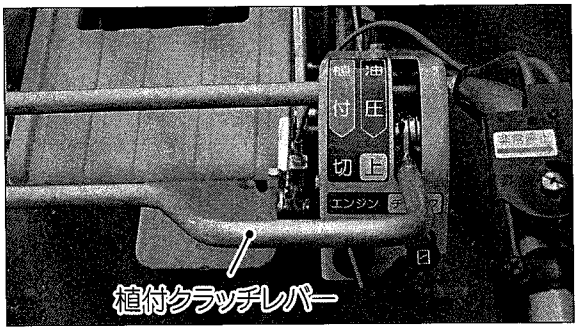
後進 ……後進時



●「中立」以外では始動できません。

■植付クラッチレバー

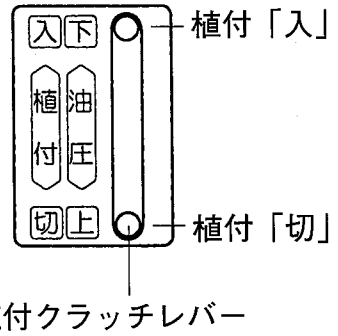
本レバーは，植付クラッチの「入」・「切」と機体の「上昇」・「止」・「降下」との作用を1本のレバーで兼用する構造となっています。



●「切」にしないと始動できません。

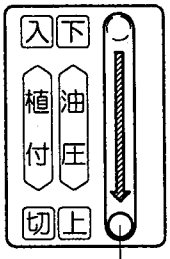
植付クラッチ「入」・「切」の場合

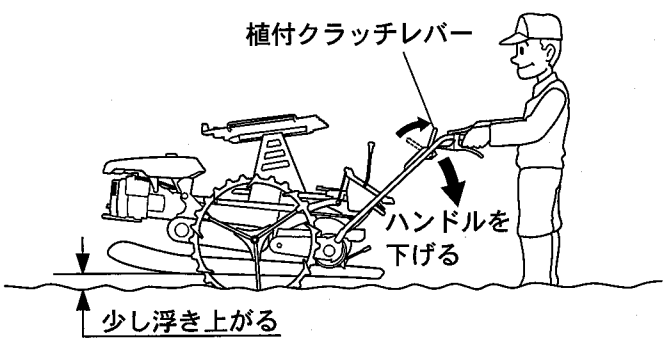
植付クラッチレバーを前に倒すと植付は「入」になります。手前に起こすと植付は「切」になります。



ほ場内で旋回する場合

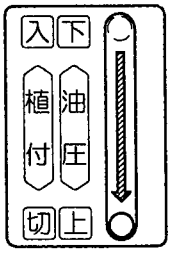
植付クラッチレバーを「切」にすると機体が浮き，泥を押すことなく旋回できます。



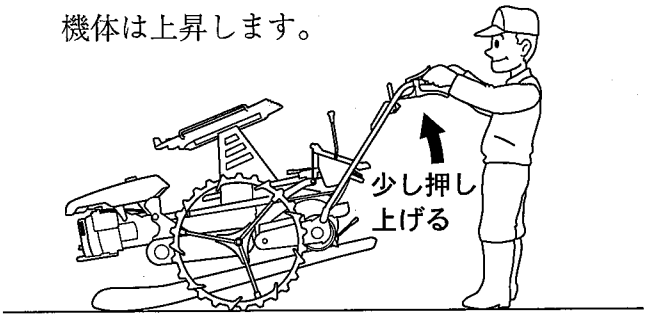


機体を任意の高さで止める場合

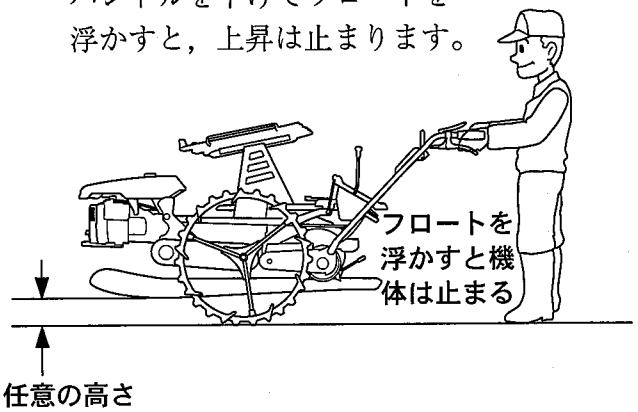
①植付クラッチレバーを「上」の位置にします。



②ハンドルを少し押し上げると機体は上昇します。

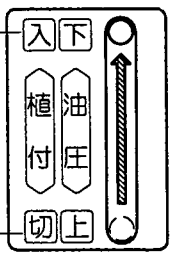


③機体を任意の高さにした所で，ハンドルを下げてフロートを浮かすと，上昇は止まります。



機体を下降させる場合

①ハンドルを押し下げフロートを接地面から浮かします。
②植付クラッチレバーを「下」まで倒すと，機体は下降します。

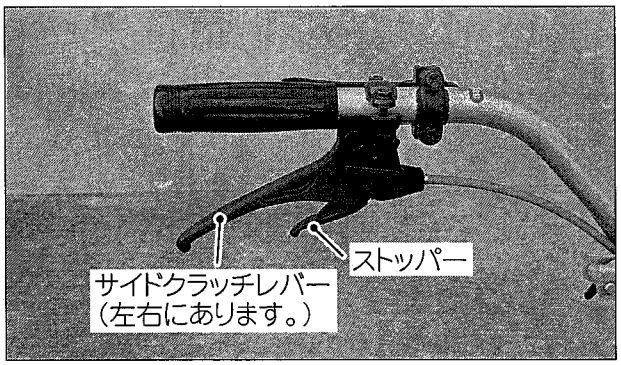


③植付クラッチレバーを「上」の位置にすると下降は止まります。

下降は止まる

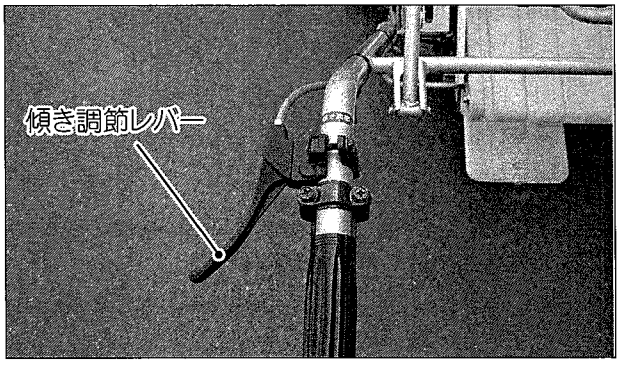
■サイドクラッチレバー

右側を握る ……右に旋回します。
左側を握る ……左に旋回します。



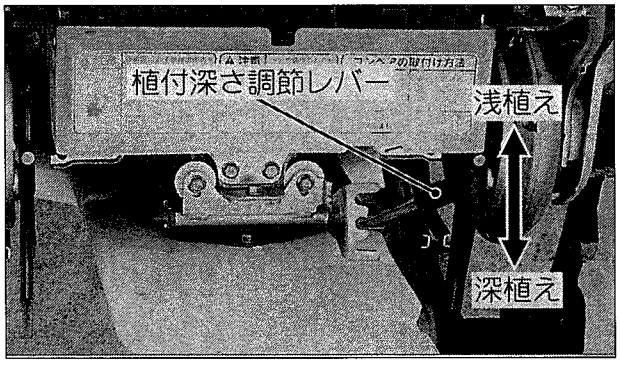
■傾き調節レバー

レバーを握ると機体を左右に傾けることができ，レバーを放すとその位置でロックされます。
移動時は機体を水平の状態にしてください。



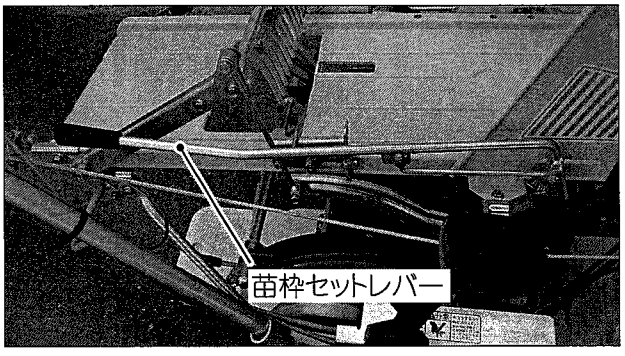
■植付深さ調節レバー（31ページ参照）

「浅植え」
「深植え」 を調節するレバーです。



■苗枠セットレバー（32ページ参照）

苗をセットするレバーです。



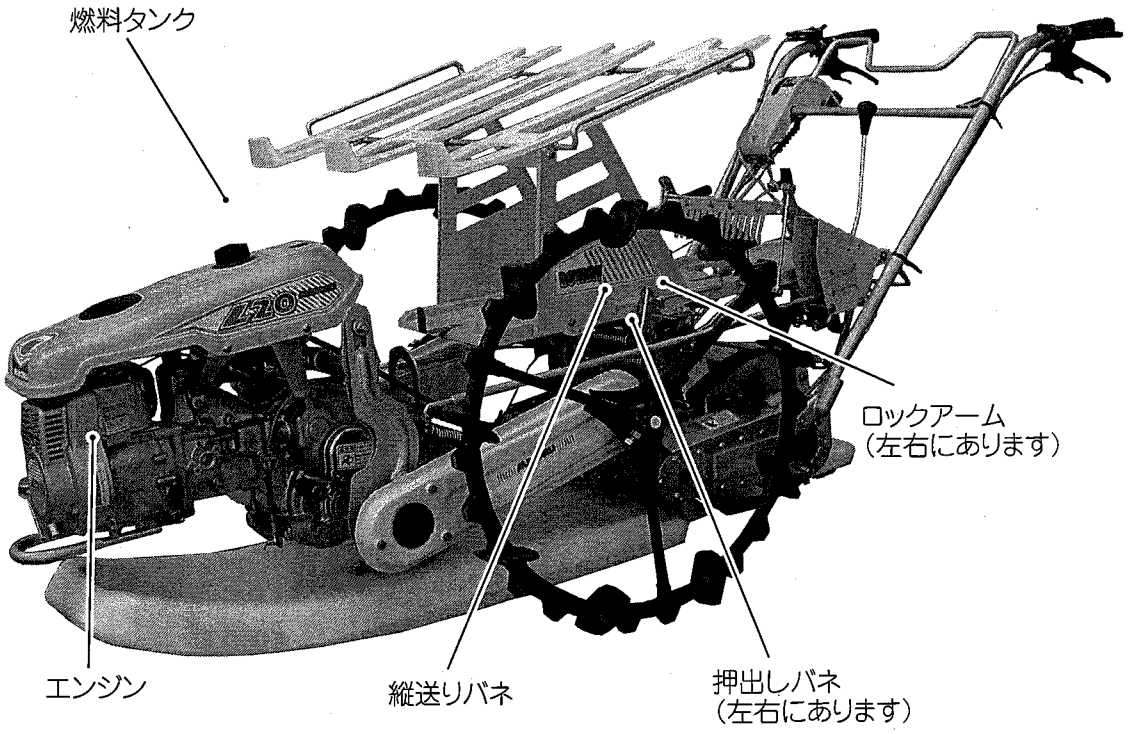
作業前の点検

故障を未然に防ぐには，田植機の状態をいつもよく知っておくことが大切です。
始業点検は毎日欠かさずおこなってください。

⚠警 告

給油，注油及び点検整備するときは，次のことを守ってください。
(1) 田植機を平たんな広い場所に置く。
(2) エンジンを停止する。
(3) エンジンなどの過熱部分を充分に冷やす。
(4) くわえタバコなど火気厳禁。
(5) 主変速レバーを「中立」にする。
以上の安全を確認して行ってください。
安全を確認せずに点検整備すると傷害事故を引き起こすことがあります。

給油・注油箇所の点検と補給



■燃料（無鉛ガソリン）の給油

燃料タンク容量	2.3 ℓ

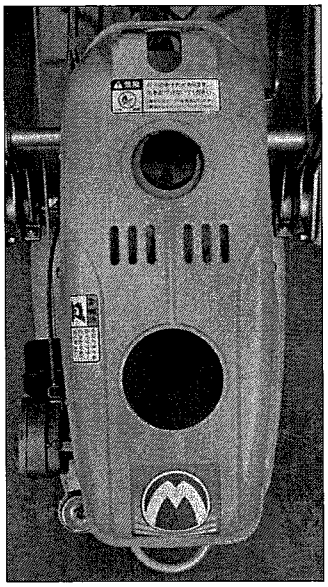
⚠危険

燃料給油時には引火の恐れがありますので，火気を近付けないでください。

⚠警告

(1) 燃料を補給する時は，エンジンを停止し過熱部分が充分冷えてから行ってください。燃料のつぎこぼしなどにより火災の原因になり大変危険です。

(2) 燃料をつぎこぼした時は，きれいにふき取ってください。エンジンを始動する時，引火し火災の原因となり大変危険です。



重要

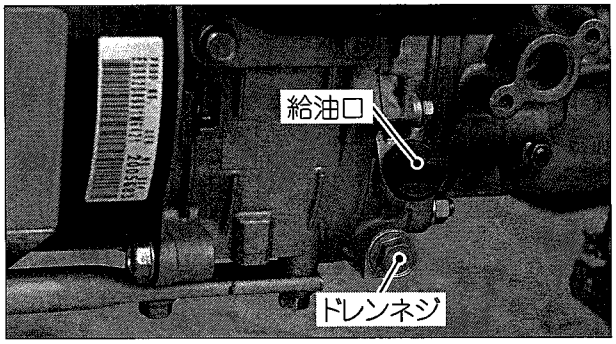
●燃料の保管は樹脂製タンクではなく，市販のガソリン専用容器を使ってください。これを怠ると燃料が変質し，エンジン不調の原因となります。

■エンジンオイルの点検・給油

毎日作業前には，エンジンを水平にし，エンジンオイル量を点検してください。

⚠警告

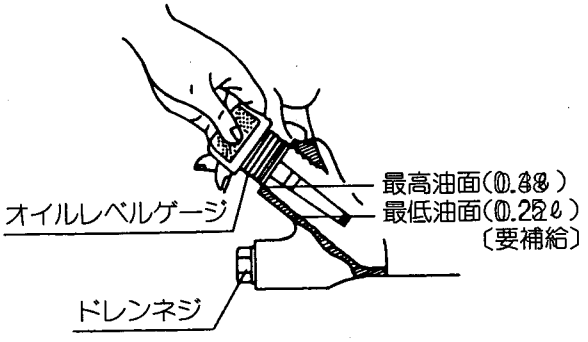
エンジンオイルの点検・補給は必ずエンジンを停止し充分冷えてから行ってください。
これを怠ると，やけどをする恐れがあります。



点検

給油口にゲージを当て最低油面より多いこと。最低油面以下の場合は，補給してください。
オイルはAPI分類SE,SF級相当のSAE30#又は10W−30のオイルを使用してください。

オイル量	0.38 ℓ



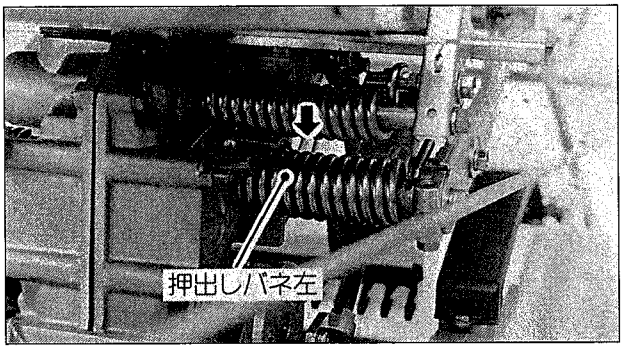
重要

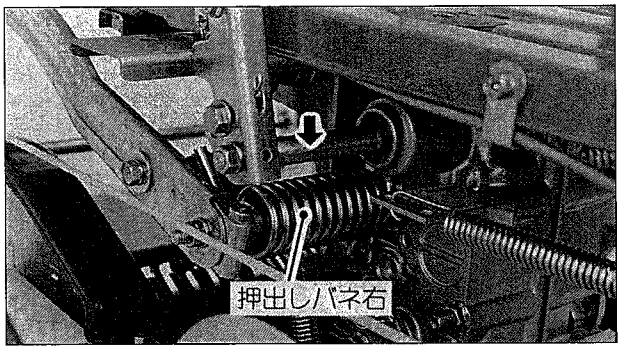
エンジンオイル補給後は，エンジンを始動させオイルがレベルゲージ範囲内にあることを確認してください。

■注油箇所

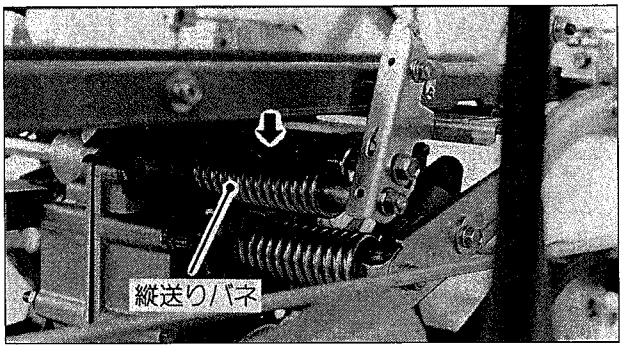
(1) 毎日使用前に注油してください。

① 押出しバネ 左，右

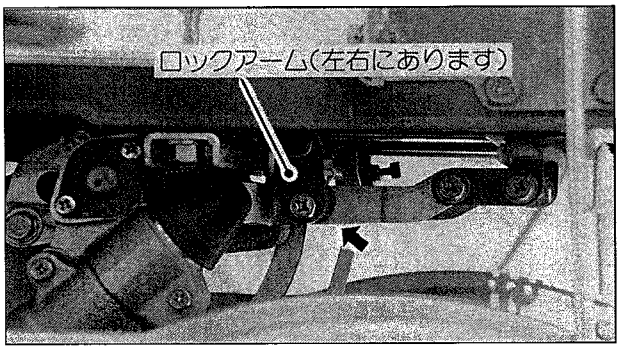




② 縦送りバネ



③ ロックアーム



運転のしかた

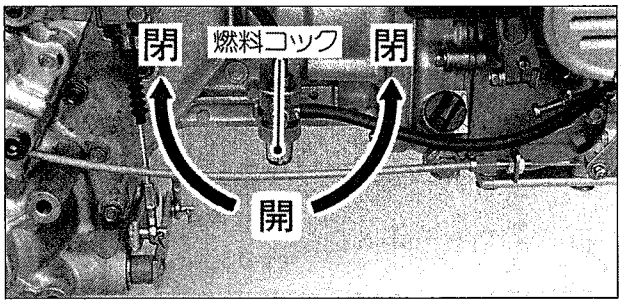
⚠警 告

(1)始動する前に安全力バー類が取付けてあるか確認してください。
(2)室内でエンジンを始動するときは，窓を開けて換気を充分に行ってください。換気が悪いと排気ガス中毒を起こし大変危険です。
(3)エンジンを始動する時は，植付クラッチレバーを「切」にし，主変速レバーを「中立」にして，周囲の安全を確認してから行ってください。怠ると 始動できません。
(4)エンジンを始動するときは，周囲の人に『声』をかけ合図してください。

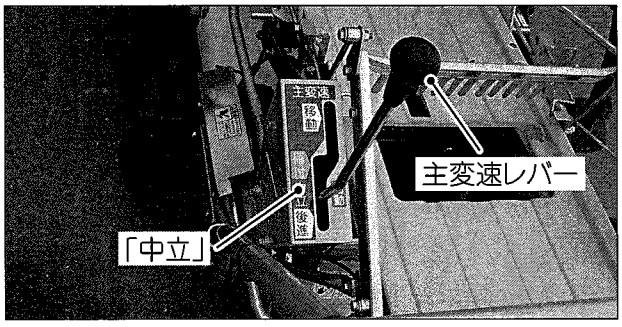
エンジンの始動と停止のしかた

■エンジンの始動

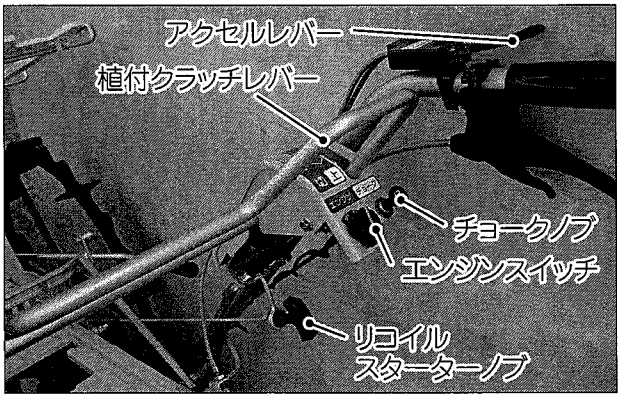
(1)燃料コックを開きます。



(2)主変速レバーを「中立」にします。
（「中立」以外では始動できません）



(3)植付クラッチレバーを「切」にします。
（「切」以外では始動できません）
(4)エンジンスイッチを「ON」にします。
(5)アクセルレバーを中速程度にします。
(6)チョークノブを引きます。
(7)リコイルスターターノブを勢いよく引きます。
(8)始動後，チョークノブを徐々に戻し，３～５分位暖気運転をします。



■エンジンの停止

(1)アクセルレバーを「低」にします。
(2)エンジンスイッチを「OFF」にします。

重要

●エンジン停止直後の再始動は誤作動防止のためエンジン停止後，10秒以上経過しないと行なえません。

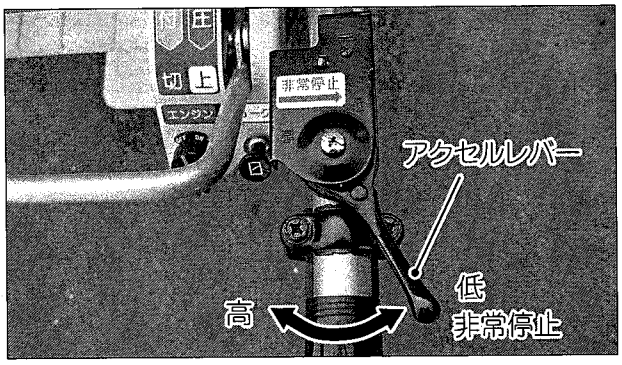
発進，停止のしかた

■発進のしかた

(1)アクセルレバーを「低」の位置にします。

(2)主変速レバーを希望の位置に合せます。

(3)アクセルレバーをゆっくり「高」の方へ回すと発進します。



高 ……発進します。
低 ……止まります。(クラッチが切れます)

⚠注 意

発進する時は，周囲の安全を確認して，ゆっくり発進してください。
急発進すると，思わぬ事故を引き起こす恐れがあります。

■停止のしかた

アクセルレバーを「低」の方へいっぱい回すと停止します。

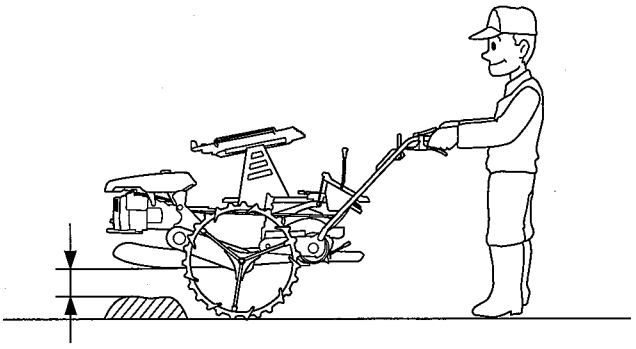
⚠注 意

この田植機は遠心クラッチ式のため，非常時には，アクセルレバーを『低』にして停止してください。
サイドクラッチレバー等での操作は，あわてて誤操作等の可能性があり，大変危険です。

移動，運搬のしかた

■移動のしかた

(1)植付クラッチレバーを操作し，フロートが地面や障害物に接触しない高さにします。
（17ページ参照）
(2)主変速レバーを「移動」にします。



接触しない高さ

重要

機体は傾き調節レバーで水平な状態に固定します。（18ページ参照）

⚠警告

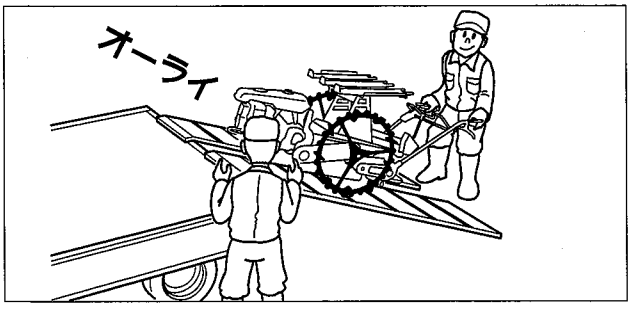
(1)エンジン回転を落し，ゆっくり移動してください。
(2)傾斜地では，絶対にサイドクラッチレバーを握らないでください。
(3)傾斜地では急な旋回をしないでください。
(4)狭い場所や，側溝のある場所を通る時は，路肩に注意してください。
これらを怠ると，転倒・転落事故や傷害事故をおこす恐れがあります

■トラックへの積み・降ろし

(1)エンジンをかけてゆっくり積み・降ろしてください。
(2)植付クラッチレバーを「切」にしてください。
(3)主変速レバーを，

積込む時は 植　付
降ろす時は 後　進

にしてください。



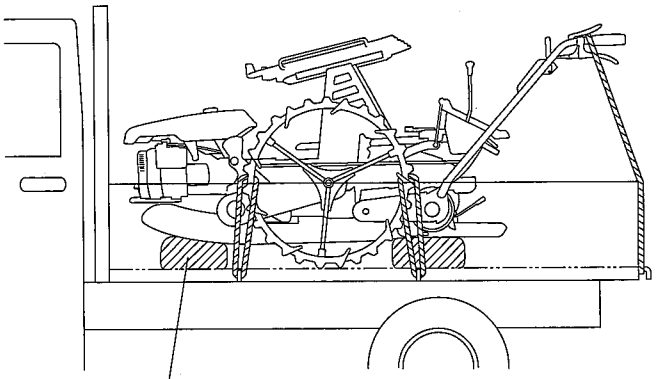
《アユミ板の条件》
- ●長さ……車の荷台高さの4倍以上
- ●幅　……30cm以上
- ●数量……2枚
- ●強度……1枚の強度が250kg以上
- ●すべり止めのあるもの

⚠注意

(1)積み・降ろし作業を行う際は，トラックのエンジンを止め，変速を『1速』か『R』位置にして，駐車ブレーキをかけ，車止めをして行ってください。
(2)積み・降ろし作業を行う際は，強度・幅・長さの充分あるスリップしないアユミ板を使用してください。また，アユミ板はトラックの荷台から落ちないように確実にセットしてください。
(3)積み・降ろし作業を行う際は，必ず誘導者を付け，周囲の安全を充分確認しながら行ってください。また，田植機の直前や直後には，絶対に立たないでください。
(4)積み・降ろし作業中は，絶対にサイドクラッチレバーを握らないでください。
これを怠ると転落事故の原因になり大変危険です。

■運搬中の固定のしかた

(1)フロートの下に敷物を置き，機体を降ろしてください。
(2)植付クラッチレバーを「入」にし，主変速レバーを「中立」以外の位置に入れます。
(3)両方の車輪にロープを掛け，荷台に固定してください。
(4)ハンドルをロープで軽く押えて，機体がはね上らない様にしてください。



重要

積み・降ろし，及び機体を固定する際ガイド板をつき上げると故障の原因になることがあります。

⚠注 意

田植機をトラック等で運搬する場合は，田植機本体を，必ずロープで荷台に確実に固定してください。運搬中は運転に注意し，不必要な急発進・急ブレーキ・急ハンドルはしないでください。田植機が移動して大変危険です。また，長距離を運搬する場合は，安全のために，途中でロープのゆるみ等を確認してください。

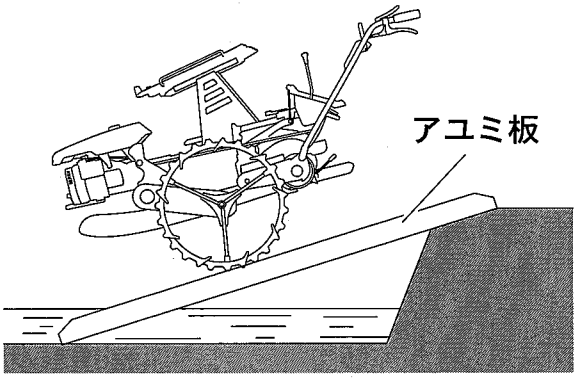
ほ場への出入のしかた

⚠注 意

ほ場との高低差が大きい時は，アユミ板を使用してください。
予備苗台および苗のせ台には，苗をのせないでください。又田植機に荷物を積まないでください。

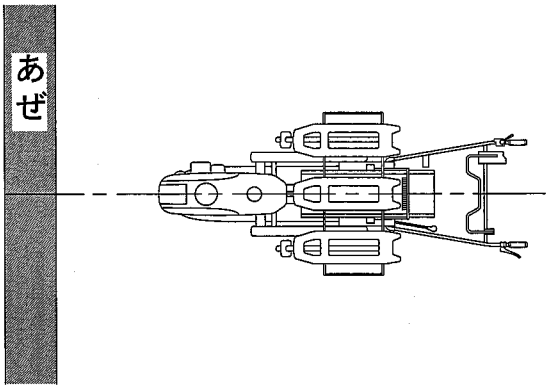
■ほ場への入りかた

(1)機体をいっぱいに上げてください。
(2)植付クラッチレバーを「切」にしてください。
(3)主変速レバーを「植付」にして，エンジン回転を徐々に上げてゆっくりとほ場に入ってください。



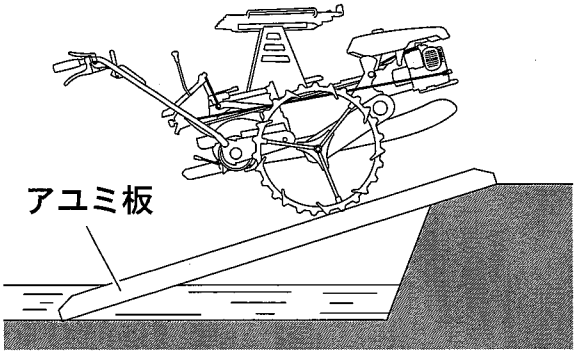
⚠注 意

(1)ほ場への出入りやあぜごえをする場合には，必ずあぜに直角に進んでください。
(2)途中でサイドクラッチレバーを握らないでください。



■ほ場からの出かた

(1)傾き調節レバーを操作し、機体を水平にしてください。（18ページ参照）
(2)機体をいっぱいに上げてください。
(3)植付クラッチレバーを「切」にしてください。
(4)主変速レバーを「植付」にして、エンジン回転を徐々に上げてゆっくりとほ場から出てください。



作業のしかた

ほ場と苗の準備

■ほ場の準備

代かき

代かきは，ほ場の表面の凹凸をなくすように，ていねいにしてください。

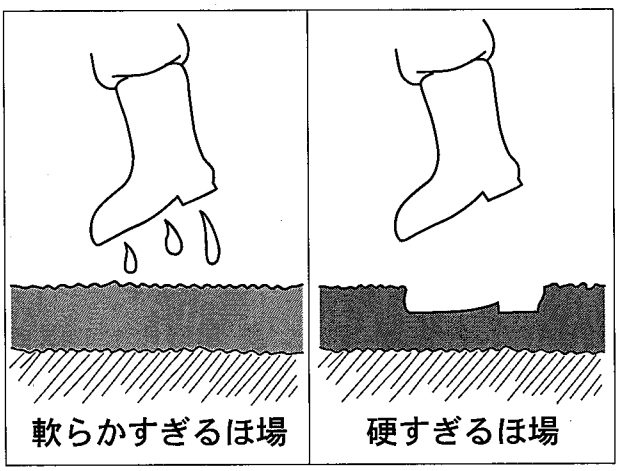
重要

●代かき日は，土質などによっても異なりますので，当地に合った代かき日をきめてください。

●ほ場の硬さは，やや柔らか目の硬さが最適です。
歩いても足跡がすぐ埋まるような柔らかいほ場や，足跡が完全に残るような硬いほ場では，きれいな植付ができないことがありますので注意してください。

次の様なほ場では，きれいな植付けが出来ない場合があります。

●耕盤までの深さが35cm以上の深いほ場。
●水深が平均5cm以上のほ場。
●切り株や排ワラなどが表面に多量にあるほ場。
●上記以外でも条件によってはきれいな植付けが出来ない場合があります。
●田植機の性能が充分発揮出来ない場合は販売店によくご相談ください。



■苗の準備

重要

●苗は使用する前に必ず畦際などの水のある所につけて，苗土の中に水が充分浸透するまで濡らして植付けをします。
特に根張りのよい苗は，充分つけておきます。

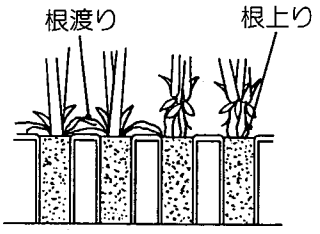
●濡らして使用する場合が絶対条件ですが，非常に根張りの悪い場合や，崩れやすい苗土を使用している場合は，濡らし方に注意してください。



○

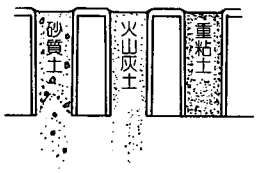
次の様な苗では，田植機による田植作業ができない場合があります。

(1)根渡り苗や根上り苗は植付けできないこともあります。



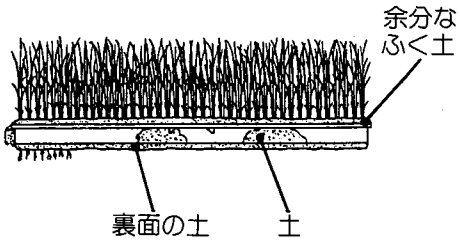
×

(2)砂質土・火山灰土・重粘土，このような土を使用しますと，植付不調となります。



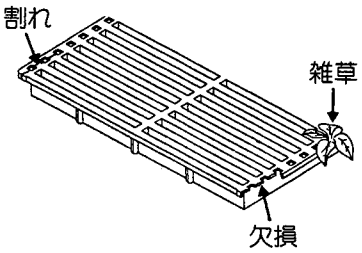
×

(3)苗枠の裏面や側面に土が多く付着していると苗枠の送りができなくなります。



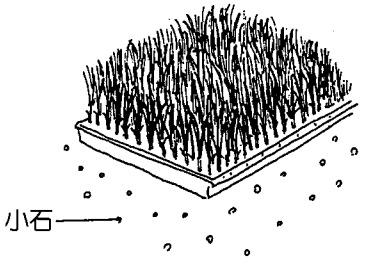
×

(4)壊れている苗枠は使わないでください。又，角穴に入っている雑草等は取り除いてください。
苗枠の送りができない場合があります。



×

(5)苗を小石のある所には置かないでください。
苗受やガイド板に小石が噛み込んで植付できなくなります。



×

植付作業前の準備

■植付株間の決めかた

替ギヤーの交換で株間が変わり，栽植密度を調節できます。
■印欄が標準付属品の替ギヤーで調節できる株間を示し，その他の株間は注文部品の替ギヤーをお買上げの上，調節してください。（56ページ参照）

出荷時株間 ↓

株間 (cm)			14	⑯	18	20	22	24	13	15	17	21	23	26	27	31
植付株数 (株／3.3㎡)			72	63	56	50	45	41	77	67	59	47	43	38	37	32
使用苗枠数 (枠／10a)	一枠株数	740株（細植え）	29	25	22	20	19	17	31	26	23	20	18	16	15	13
		592株（太植え）	36	31	28	25	23	21	38	33	29	24	22	20	19	17
替ギヤー	前（エンジン側）		18	17	17	16	15	15	7	3	3	2	10	5	19	4
	後（ハンドル側）		15	15	16	17	17	18	19	10	2	3	3	6	7	8

替ギヤー16･18は標準付属品として工具袋に入っています。

注文部品の替ギヤーで調節してください。

重要

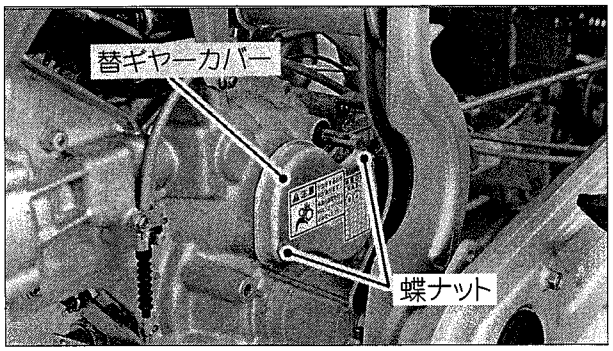
●表中の植付株数及び苗枠数は，ほ場の条件によっていくぶん異なりますので，10a当り2～3枠程度の予備苗を準備することをおすすめします。

●株付株数及び1枠株数により，苗枠数が異なりますので，あらかじめ播種時に植付株数及び1枠株数に合った枠数を準備してください。植付株数及び1枠株数を途中で変更しますと苗の過不足が生じます。

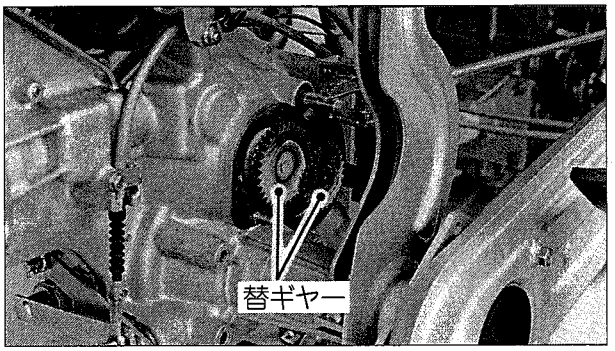
■株間調節のしかた

⚠注 意

株間の調節を行う際は，必ずエンジンを止めて行ってください。
守らなかった場合は，ギヤー等に指をはさまれる恐れがあり，大変危険です。



(1)蝶ナットを取り，替ギヤーカバーを外します。
(2)希望の替ギヤーと交換します。
(3)ギヤーの歯面にグリスを塗ります。



重要

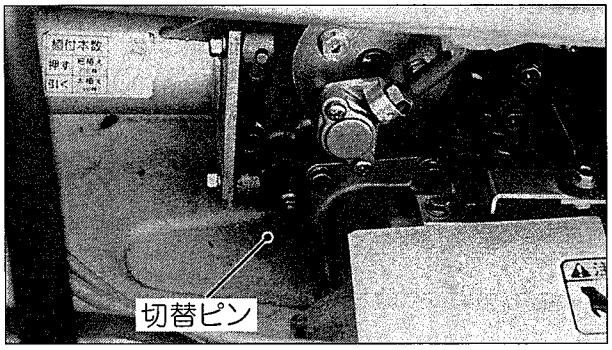
替ギヤーカバーは元通りきちんと取付けてください。

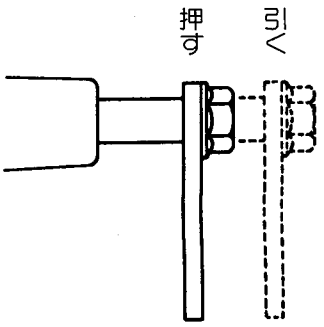
■植付本数（枠株数）の調節のしかた

基本的には播種量で決めてください。
下の表は，１本の溝に 45 ～ 50 粒（標準播種量）播種した場合です。
切替ピンの操作で細植え，太植えの調節ができます。

切替ピンの位置	１枠の株数（株）	短冊１本の株数（株）	１株の長さ（mm）	植付本数（本）
押す	740	10	12	4 ～ 5（細植え）
引く	592	8	15	5 ～ 6（太植え）

出荷時は　　の仕様です。





⚠注 意

切替ピンの操作をする時は，必ずエンジンを停止してから行ってください。
怠ると傷害事故を引き起す恐れがあり危険です。

重要

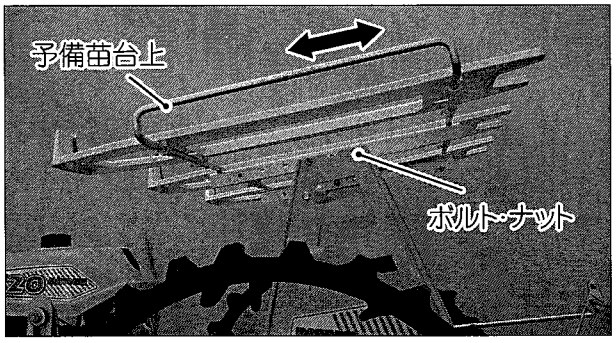
●切替ピンが中立ですと，植付ドラムは回転しても『コンベアーベルト』・『押出し板』は動きませんので，確実に切替えを行ってください。

■予備苗台上の調節のしかた

締付けボルト・ナットを外し，使いやすい位置に調節します。

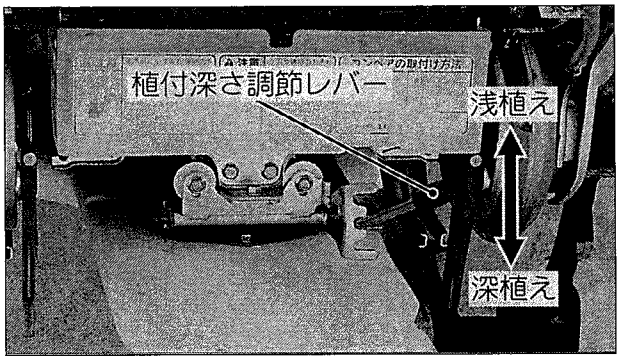
⚠注 意

予備苗台上位置の調節はエンジンを停止して行ってください。これを怠るとケガをする恐れがあります。



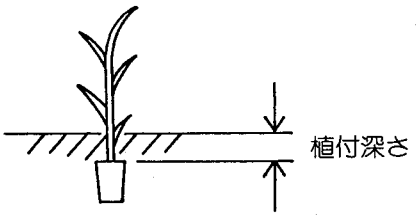
■植付深さの調節のしかた

フロート後部を少し浮かして調節します。植付深さ調節レバーのセット位置を変えることにより，植付深さは３段階に選べます。



重要

- ●植付深さは，必ずほ場で試し植えをして確認してください。
- ●表土がトロトロの極めて軟いほ場では，浅植えにするところび苗が発生することがあります。

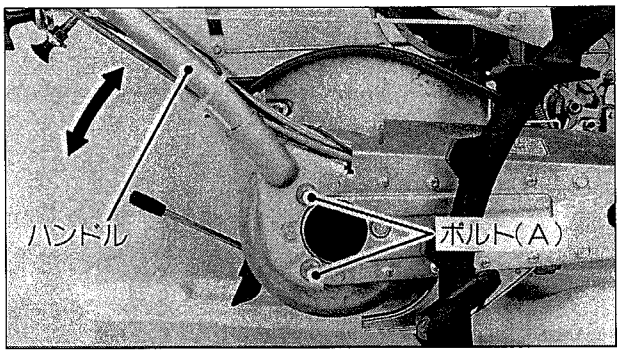


■ハンドル高さの調節のしかた

A,B６ケ所の締付けボルトをゆるめ、使いやすい高さに調節します。

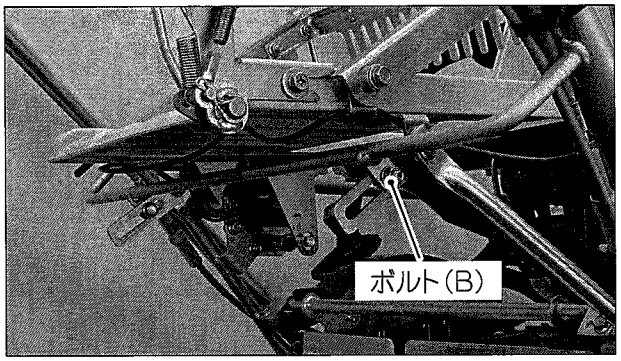
⚠注 意

ハンドル高さの調節をする時は，必ずエンジンを停止してから行ってください。
これを怠るとケガをする恐れがあります。



■油圧感度の調節のしかた

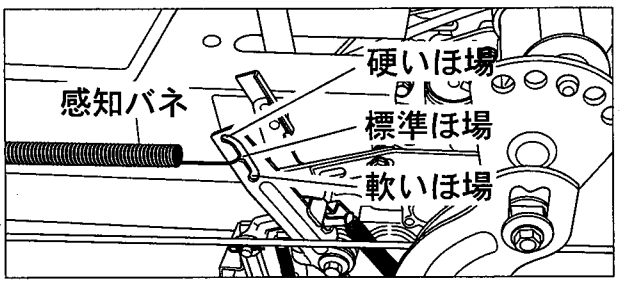
硬いほ場 ……感知バネを上側にします。
（フロート後部が浮く場合）
軟いほ場 ……感知バネを下側にします。
（フロートで泥を押す場合）



感知バネの掛け替えを行う時は，機体の前方を少し上げて行ってください。

⚠注 意

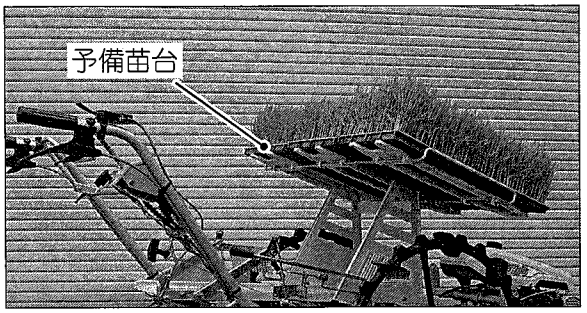
油圧感度の調節をする時は，必ずエンジンを停止してから行ってください。又，バネはプライヤ等で持ってください。
これを怠るとケガをする恐れがあります。

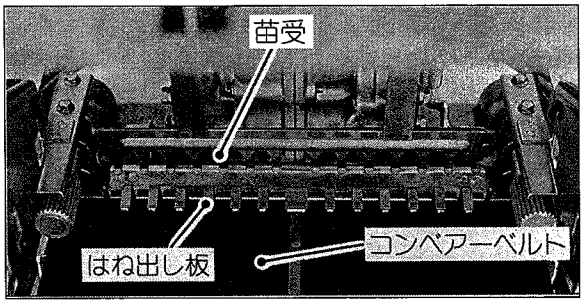


植付作業の手順

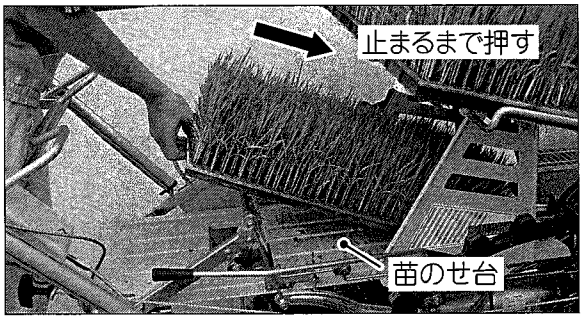
■スタートと植え進みかた

(1)ゆっくりほ場に入り，スタート地点まで進みます。
(2)アクセルレバーを「低」にして，走行を止めます。（16ページ参照)
(3)主変速レバーを「中立」にします。（16ページ参照)
(4)予備苗台に苗をのせます。
3箱までのせることができます。
(5)植付クラッチレバーを「入」にします。
(6)アクセルレバーを操作し，苗受をはね出し板のあたりで止めます。



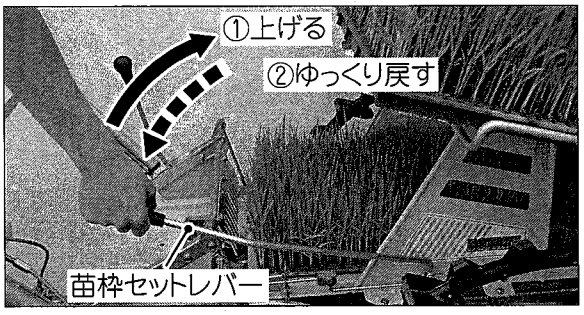


(7)苗枠を苗のせ台にのせ，止まるまで前方へ押します。



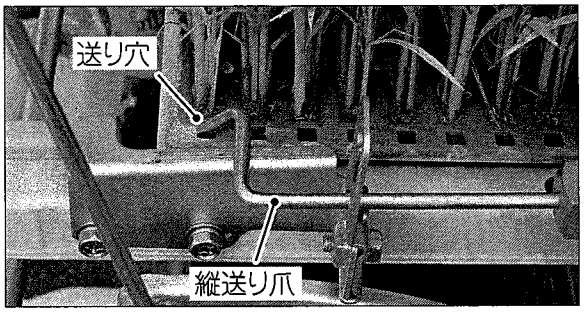
重要
壊れた苗枠は使用しないでください。

(8)縦送り爪の先端が苗枠の最初の送り穴に入るまで，苗枠セットレバーを持ち上げます。



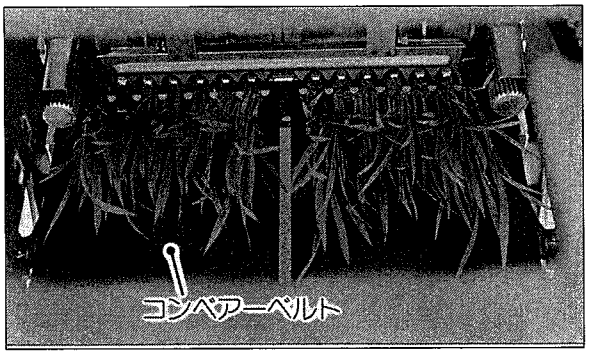
必要以上に上げないでください。

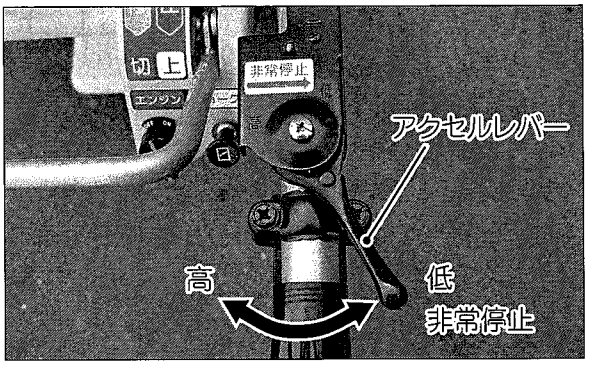
(9)苗枠セットレバーに手をそえたまま元の位置までゆっくり戻します。

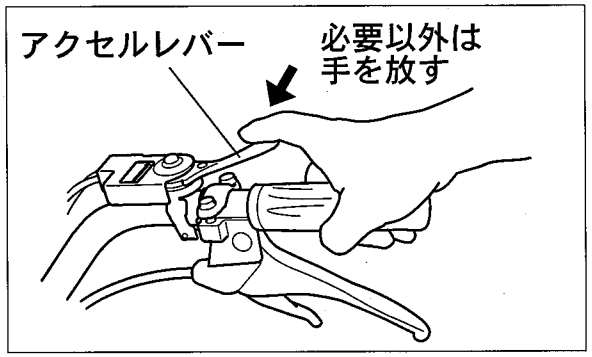


重要
上げた位置で手をはなすと，苗枠のセット位置が不正確になり，苗の押し出しができなくなります。

(10) アクセルレバーを徐々に「高」の方へ回し，植付部を動かします。
苗枠は自動的に送り込まれます。
(11) コンベアーベルトの上に苗が並んだらアクセルレバーを「低」にします。
(12) 主変速レバーを「植付」にします。
(13) 周囲の安全を確かめて，スタートの合図を行い，アクセルレバーを徐々に「高」の方へ回して植付を開始します。
(14) 苗がなくなると自動的に前進及び植付が止まります。







重要

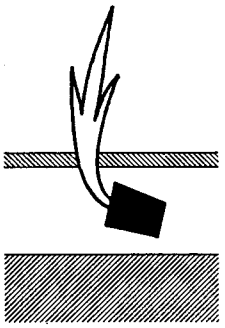
●アクセルレバーを持っていると，自動的に止まりませんので，必要時以外はアクセルレバーから手を離して下さい。

●植付け作業を開始して，各調節が希望する値になっているか確認してから，連続作業を行ってください。

●ほ場の状態，苗の条件により植付精度は変化します。低速で植付状態を見ながら徐々に速度を上げ，最も良い速度を選んでください。
●次の様な条件の時，植傷み苗になることがあります。
この様な場合は，植付速度を落してゆっくり作業してください。

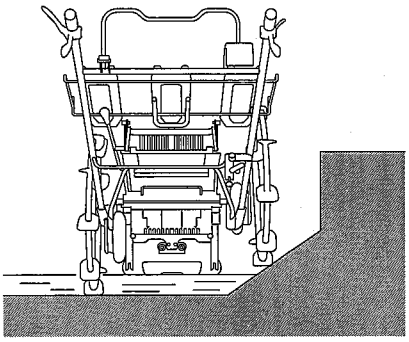
- ●貧弱苗
- ●根張りが悪い苗
- ●ガイド板が変形している。（内幅が広くなっている）

●ハンドルは無理に押し下げたり，持上げたりしないでください。植付不良の原因となります。



植傷み苗

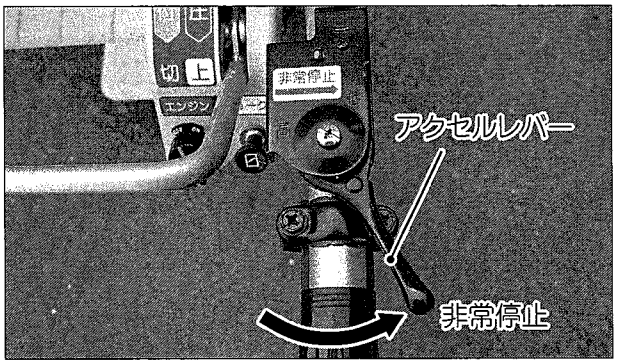
(15)畦ぎわを植える時や，機体が傾く場合は，傾き調節レバーを操作して機体を水平にしてください。　　（18ページ参照）



重要

機体が傾いたまま植付けしますと，ころび苗などの植付不良を生ずることがあります。

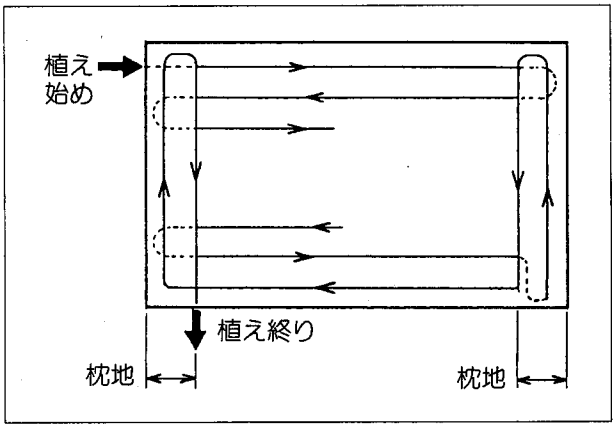
> **⚠ 注 意**
>
> この田植機は遠心クラッチ式のため非常時にはアクセルレバーを低にして停止してください。
> サイドクラッチレバー等での操作はあわてて誤操作等の可能性があり大変危険です。



■枕地のとりかた

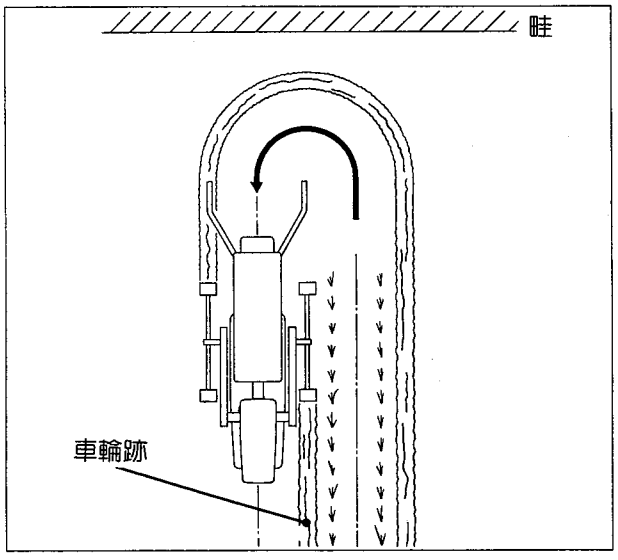
枕地はあらかじめ１往復分残して植付ければ、能率的に枕地植えが行えます。

ほ場が長方形でない場合は，まっすぐで最も長いあぜに沿って植え始めると，きれいに植え付けができます。



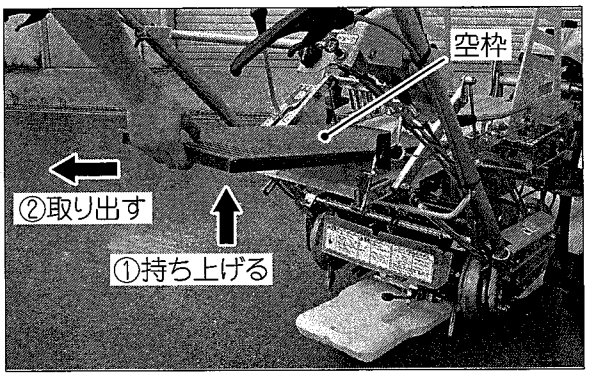
■旋回のしかた

(1)畦に接近したら植付速度を下げてください。
(2)旋回する時は，植付クラッチレバーを「切」にして，機体が少し浮き上ったら，ハンドルを下に押え上昇を止めます。
(3)旋回する側のサイドクラッチレバーを握ってゆっくりと旋回します。
(4)車輪跡に車輪を合せて，サイドクラッチレバーを離します。



■苗の補給のしかた

苗がなくなると自動的にアクセルレバーが「低」にもどり，前進及び植付けが止まります。



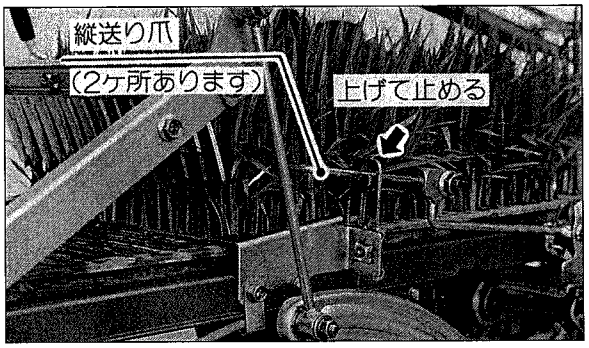
(1)空枠の後端を持上げ，後へ取り出します。

(2)苗のせ台に苗を補給します。
32 ページの(7),(8),(9)の要領で苗をセットしてください。

(3)アクセルレバーを徐々に「高」の方へ回して植付作業を続けます。

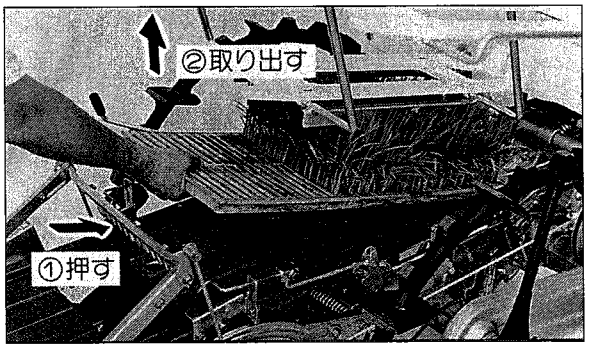
■残り苗の取り出しかた

残り苗を取り出す場合は，押出し板が苗枠から上がった状態にして行います。



(1)縦送り爪の先を上げて止めます。

(2)苗枠を前方に当たる所まで押し苗枠を取り出します。

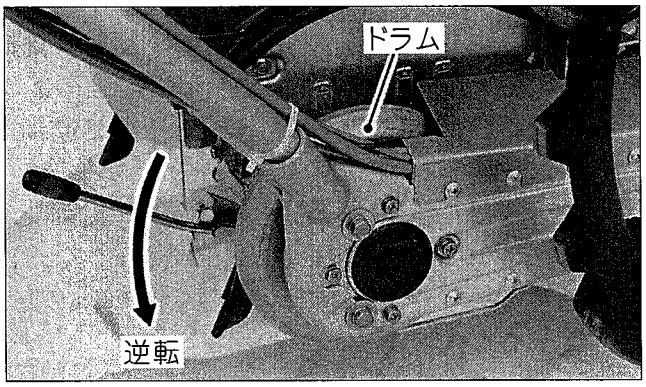


(3)縦送り爪を元に戻します。

■安全クラッチが作動したとき

植付作業中，植付部が止まりカチカチ音がする場合は安全クラッチが働いていますので次の処置をしてください。

(1)ただちにアクセルレバーを「低」にして田植機を止めてください。
(2)エンジンスイッチを「OFF」にしてエンジンを停止してください。
(3)主変速レバーを「中立」にしてください。
(4)植付爪とガイド板の間に石などの異物が噛込んでいないか確認してください。
(5)ドラムを手で逆転させて異物を取り除いてください。
（替ギヤーを外すと軽く回す事ができます。）



重要

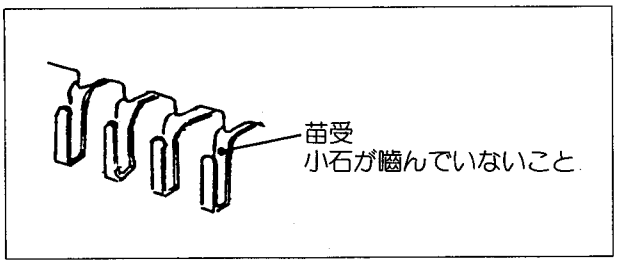
- ●植付爪が曲がったり，破損した時は，お買い上げいただいた販売店又は農協（JA）にご連絡ください。
- ●植付作業を再開する時，エンジンの始動に注意してください。（22ページ参照）
- ●植付作業を再開したら，異状なく植付けられるか確認してください。万一異状がある場合は，販売店又は農協（JA）にご連絡ください。

⚠注 意

安全クラッチの確認をする時は，必ずエンジンを停止してから行ってください。
怠ると傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。

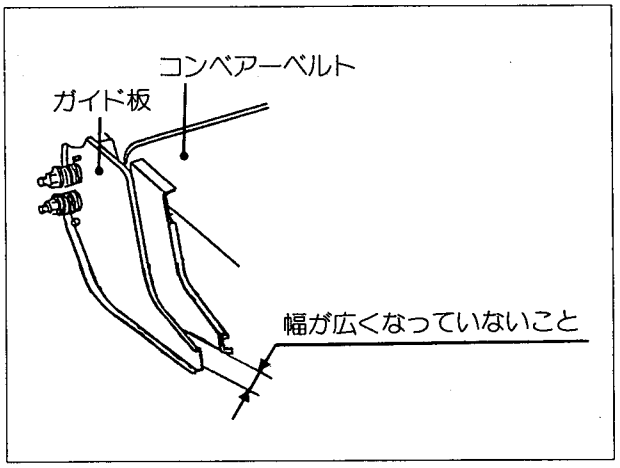
■植付部の水洗いのしかた

苗受・押出し板・コンベアーベルト・ガイド板・苗のせ台等をよく水洗いしてください。また，苗受に小石がかみ込んでいる時は，取り除いてください。



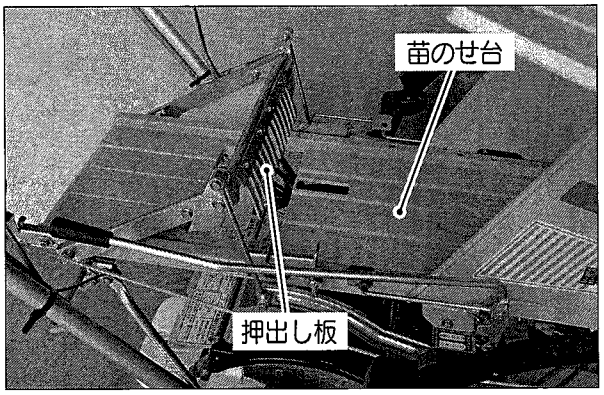
重要

- ほ場を変える時・休憩時・食事の時などの前には必ず水洗いしてください。
- ガイド板に泥・異物が詰り幅が広くなると植傷みの原因となるので，きれいに洗ってください。(変形している場合は修正又は交換してください)
- コンベアーベルトとガイド板のすき間に，異物がつまっている場合は取り除いてください。
- エアークリーナー部から水が入らないように注意してください。



⚠注 意

植付部の回転部，作動部に手を入れる場合は必ず，エンジンを停止してください。怠ると傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。



点検整備

定期的な点検整備

⚠警告

点検整備する時は，次のことを守ってください。
(1)田植機は平たんな広い場所に置く。
(2)エンジンを停止する。
(3)エンジンなどの過熱部分を充分冷やす。
(4)くわえタバコなどの火気厳禁。
(5)ヘルメット，帽子，安全靴，手袋など適正な防護具と適正な服を着用する。
(6)適正な工具や器具を使用する。
(7)カバーや蓋はきちんと元通りに取付ける。
以上の安全を確認して行ってください。
安全を確認しないで点検整備を行うと傷害事故を引き起こす恐れがあります。

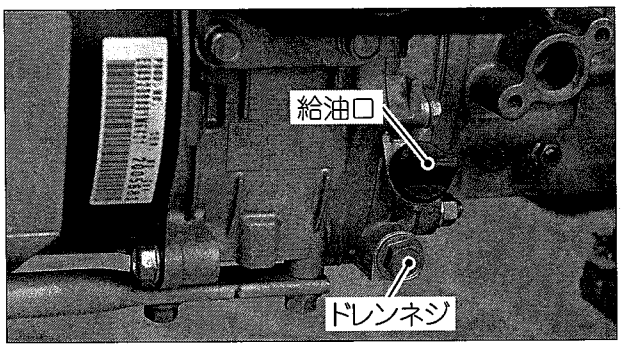
■点検整備一覧表

○点検・給油　△清掃　×調整・交換

点検・給油項目		点検時期					備考	参照ページ
		毎日	50時間毎	1シーズン毎	2シーズン毎	不調・分解時		
エンジン部	エンジンオイル	○	×				●初回のみ20時間で交換 ●SE，SF級30＃または10W-30　0.38ℓ	20 39
	エアークリーナーの清掃		△					39
	燃料カップの清掃		△					40
	燃料ホース		○		×			40
	排出ネジ			○				44
	点火プラグの清掃					△		40
走行部・植付部	指定注油箇所	○		○		○	ギヤーオイル	21
	減速ミッションオイル			○		×	ギヤーオイル90＃　3.0ℓ	41
	植付ミッションオイル			○		×	ギヤーオイル90＃　1.3ℓ	41
	車輪ケースオイル					×	ギヤーオイル90＃ 各0.2ℓ	42
	サイドクラッチワイヤー		○			×		42
	植付クラッチワイヤー		○			×		43

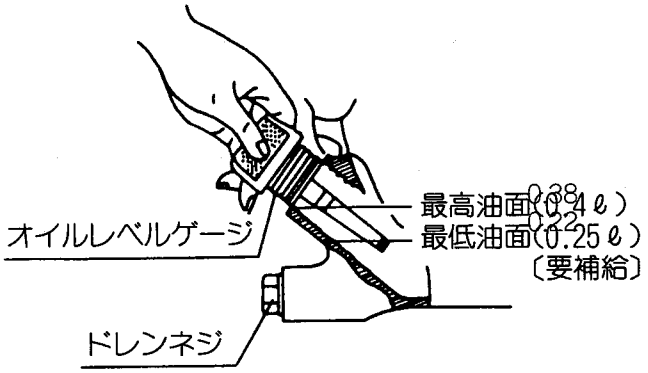
オイルの交換などで出た廃油を投棄・焼却するなどみだりに処分しますと，水質汚濁・土壌汚染・大気汚染につながりますので販売店またはお近くのガソリンスタンドにご相談ください。

■エンジンオイルの交換



交換のしかた

(1)エンジンを暖気運転後，ドレンネジを外してオイルを抜いてください。
(2)オイルが抜け終ったらドレンネジをしっかり締付けてください。
(3)エンジンが水平になる様にしてください。
(4)給油栓を外して，0.38 ℓ給油してください。
(5)オイルレベルゲージの上下刻線の間に油量があるか調べます。
適量入っていれば給油栓を確実に締めてください。



オイルレベルゲージは給油口にねじ込まないで当てるだけで確認してください。

重要

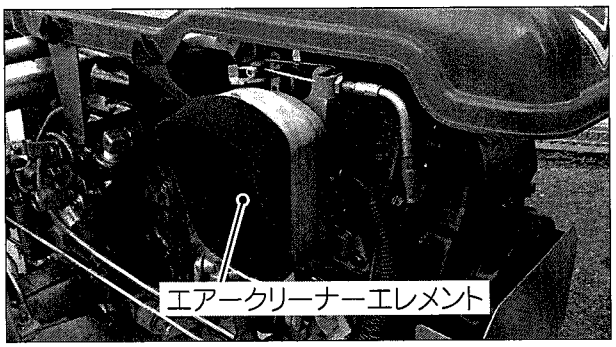
エンジンオイル補給後は，エンジンを始動させた後，一旦エンジンを停止させてオイルがレベルゲージ範囲内にあることを確認してください。

⚠警 告

(1)エンジンオイル交換時は，エンジンを停止し，充分冷えてから行ってください。
(2)作業中は火気厳禁。
(3)エンジン始動時は，植付クラッチレバーを「切」にし，主変速レバーを「中立」にしてから行ってください。
怠るとやけどや，火災，傷害事故を引き起こす恐れがあり危険です。

■エアークリーナーの清掃

エアークリーナーエレメントの汚れがひどくなると，エンジンの運転に不調をきたすばかりでなく，エンジンの寿命を極端に短くします。
クリーナーエレメントは灯油で洗浄後，エンジンオイルに浸し，固く絞って取付けてください。



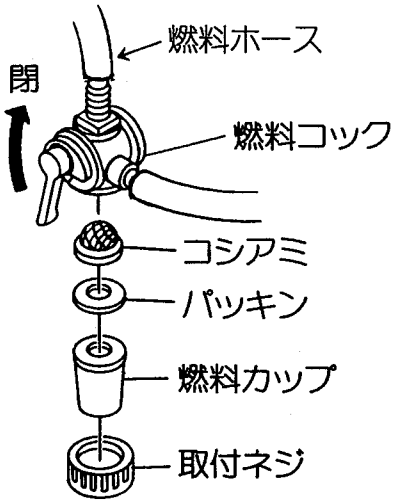
⚠注 意

エアークリーナーの清掃をする時は，必ずエンジンを停止し，充分冷えてから行ってください。

■燃料カップの清掃

(1)燃料コックのレバーを「閉」にします。
(2)燃料カップ，コシアミを取り外してガソリンできれいに洗浄し，元通り組み付けます。

> **危 険**
>
> (1)清掃時は，エンジンを停止して行ってください。
> (2)清掃後，燃料もれのないよう燃料カップを取り付け，確実に締め付けてください。
> (3)作業中は火気厳禁。



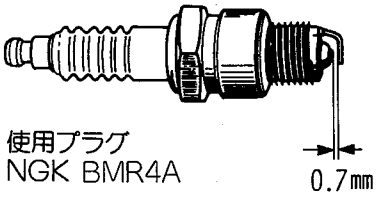
■燃料ホースの点検・交換

燃料ホースなどのゴム製品は，使わなくても老化する消耗部品です。締付けバンドとともに2年毎または傷んだ時に交換してください。ホース類や締付けバンドがゆるんだり傷んでいないか，常に注意してください。

> **注 意**
>
> 燃料ホースが破損していると燃料もれを起こしますので，必ず点検してください。

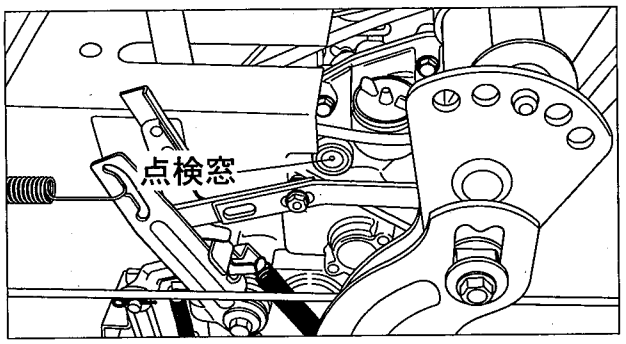
■点火プラグ(スパークプラグ)の清掃

(1)ボンネットカバーを外してください。
(2)付属のボックスレンチで点火プラグを取り外してください。
(3)プラグに付いているカーボンを，ワイヤーブラシ等で取除きます。
(4)電極のスキマが0.7 mmになる様に点検・調整します。
(5)清掃後は，ボンネットカバーをきちんと取付けてください。



> **注 意**
>
> 清掃時は、エンジンを停止し充分冷えてから行ってください。

■減速ミッションオイルの給油

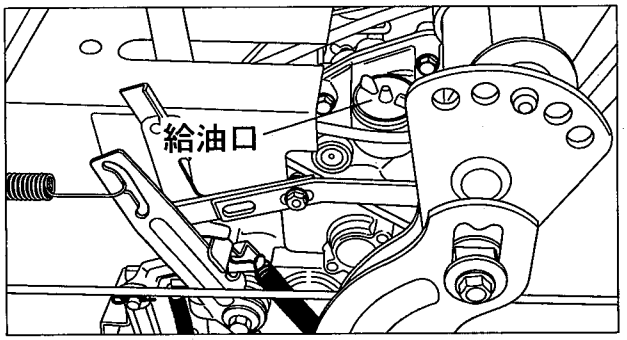


点検

(1)機体をいっぱいに降ろし水平にして点検窓で点検します。
(2)点検窓にオイルが見えない場合は，見える様になるまで補給してください。

給油

減速ミッション分解時にはオイルを給油してください。
ギヤーオイル90#　3.0ℓ

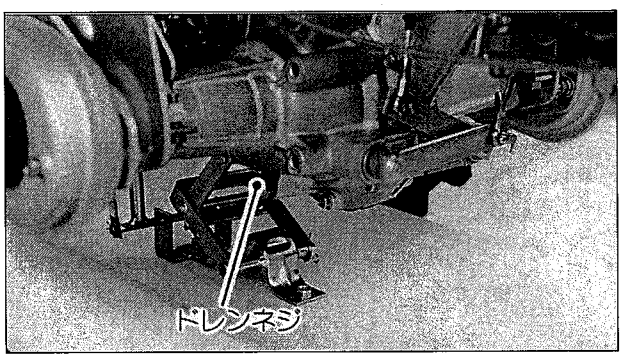


重要

オイルを入れすぎると運転中に給油栓の穴からあふれ出ることがあります。

注 意

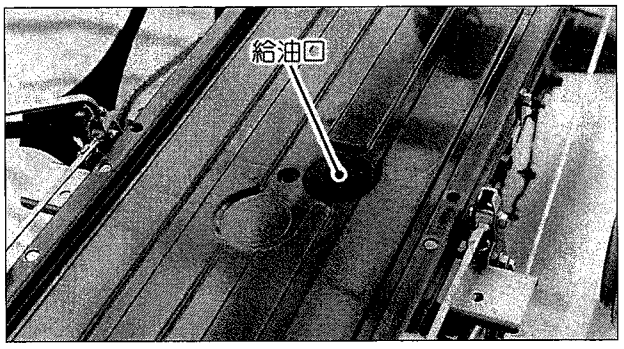
(1)オイル給油時はエンジンを停止し充分冷えてから行ってください。
(2)作業中は火気厳禁



■植付ミッションオイルの給油

点検

(1)機体を水平にして，給油口の蓋を外して点検します。軸の中心付近までオイルがあること。
(2)不足している場合には補給してください。

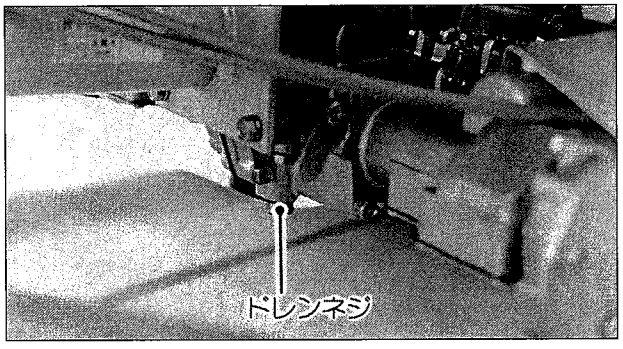


給油

植付ミッション分解時にはオイルを給油してください。
ギヤーオイル90#　1.3ℓ

重要

オイルを入れすぎると運転中に給油栓の穴からあふれ出ることがあります。

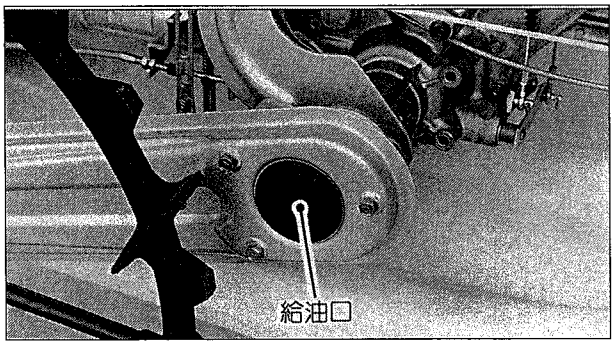


注 意

(1)オイル給油時はエンジンを停止してください。
(2)作業中は火気厳禁

■車輪ケースオイルの給油

車輪ケース分解時にはオイルを給油してください。
(1)機体をいっぱいに上げます。
(2)機体を水平にして，給油口のゴム蓋を外して給油してください。
　ギヤーオイル90#　左右各0.2ℓ



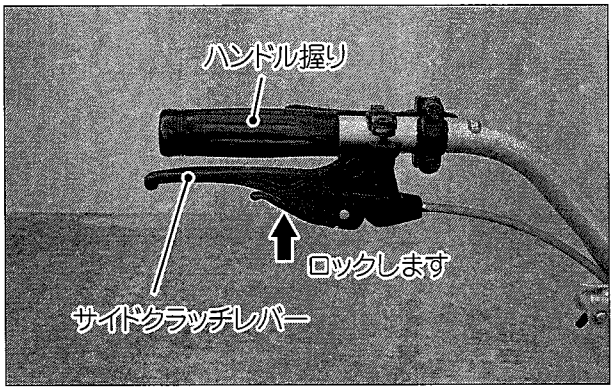
⚠注 意

(1)オイル給油時はエンジンを停止してください。
(2)作業中は火気厳禁

■サイドクラッチワイヤーの点検

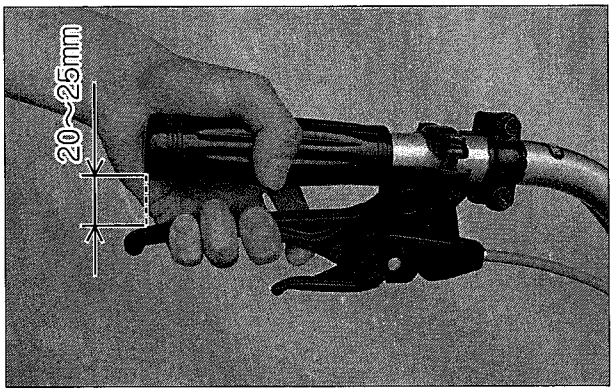
点検

サイドクラッチレバーをロックした時，サイドクラッチが完全に切れていること。
ガリガリと音がする場合は，完全に切れていませんので調整してください。



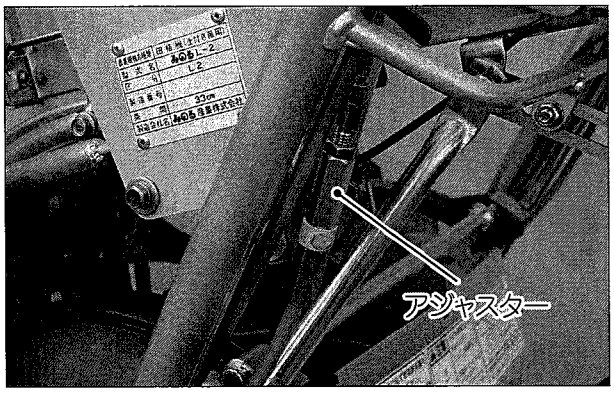
点検

サイドクラッチレバーとハンドルの握りとのスキマが，20～25 mmでサイドクラッチが切れる様に，アジャスターでサイドクラッチワイヤーの張りを調整してください。
調整後ロックナットを締付けてください。

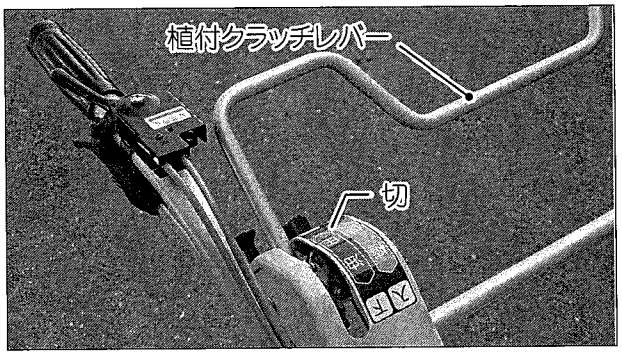


⚠注 意

(1)サイドクラッチワイヤーの調整をする時は，必ずエンジンを停止してください。
(2)平たんな場所で行ってください。
(3)主変速レバーは「植付」にしてください。
　怠ると田植機が急発進する恐れがあり危険です。

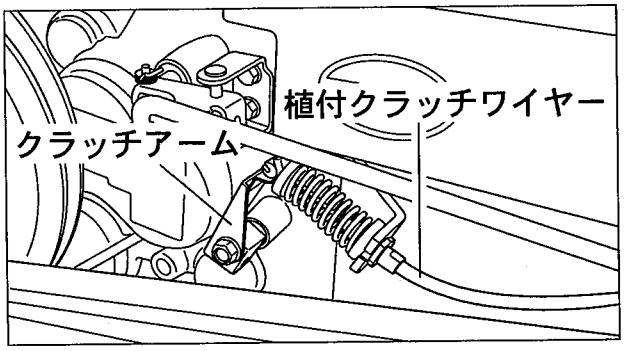


■植付クラッチワイヤーの点検



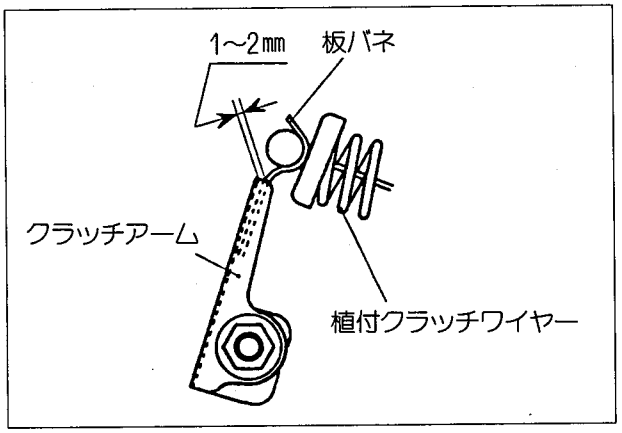
点検

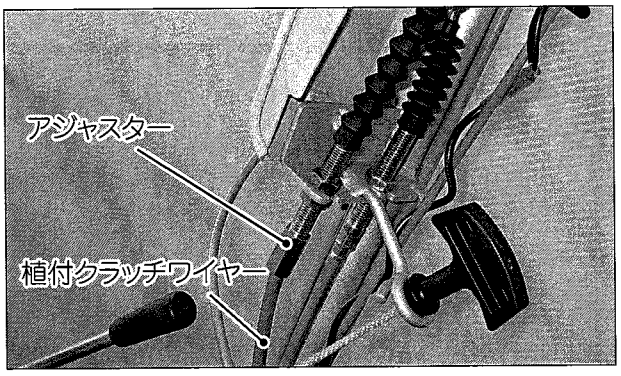
植付クラッチレバーを「切」にした時，植付部が完全に切れること。
植付部が時々動く様な場合は調整してください。



調整

(1)主変速レバーを中立位置にしてください。
(2)エンジンを始動し，植付部を回しながら植付クラッチレバーを『切』にします。
(3)エンジンを停止し，クラッチアームの板バネのたわみ（隙間）が1～2mmになる様に，アジャスターで植付クラッチワイヤーの張りを調整してください。





長期格納時の手入れ

危 険

(1) 長期格納時の手入れを行う時は、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行ってください。
(2) 長期格納時に燃料が残っていると燃料が変質するばかりでなく、引火など火災の原因となる恐れがあり、大変危険です。
(3) 燃料の抜き取り時は火気厳禁。燃料がこぼれた場合は、きれいにふき取ってください。火災の原因になり、大変危険です。
(4) 燃料の抜き取り時に取り外したり、ゆるめたボルト類は必ず確実に締付けてください。給油時に燃料漏れを起こし、大変危険です。

■長期格納時の手入れ

①移植機各部の泥・汚れをていねいに水洗いし、乾燥させてください。
②注油箇所に油・グリスを塗ってさびないようにします。
③燃料は必ず抜き取ってください。
④燃料カップを外してガソリン等で洗浄し、元通り組付けてください。(40ページ参照)

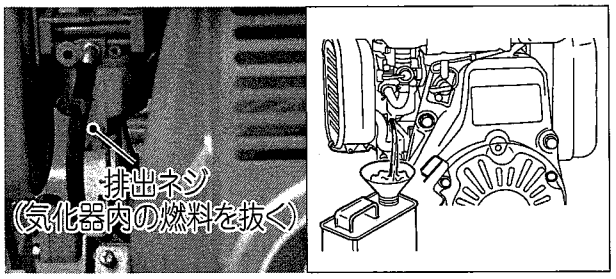
■燃料の抜き取り方

1ヶ月以上、エンジンを始動しない場合は、燃料の変質による始動不良または運転不調にならないように、燃料を抜いてください。

●燃料タンク及び燃料ホースまでの燃料を抜くには、燃料コックのレバーを開にし、燃料コック部の燃料カップを外して燃料を抜いてください。(40ページ参照)

●キャブレターから燃料を抜くために、次のどちらかを行ってください。

①キャブレター下部の排出ネジをゆるめ燃料を抜いてください。抜き取り後は排出ネジを確実に締めてください。



②燃料コックでエンジンを停止させ燃料を抜くには、燃料コックを閉にして、キャブレター内の燃料を使い切り、エンジンが自然に停止するのを待ちます。この方法はキャブレター内に残った燃料が変質し、キャブレター内のつまり等が発生することを防止する為です。

■格納のしかた

(1)格納場所は直射日光の当らない風通しの良い場所を選定し，シートカバーを掛けるようにしましょう。
(2)機体を下げフロート全体で機体を支える様にしてください。

重要

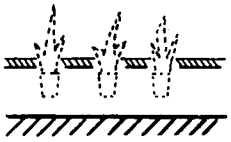
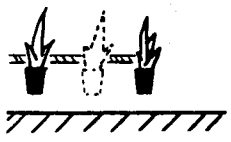
- ビニールハウスなどの高温になる場所はさけてください。
- 肥料・農薬などの近くに置かないでください。
- フロートの下に，ものがないように注意してください。

⚠警 告

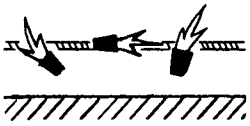
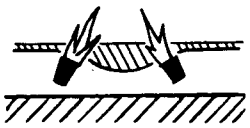
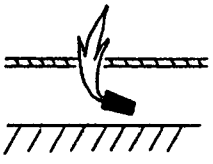
作業が終了して，シートカバー等を機体にかけるときは，過熱部分が完全に冷えてから行ってください。
熱いうちにカバー類をかけると，火災の原因になり大変危険です。

不調時の処置

●田植作業は，田植機・苗・ほ場の三拍子そろって初めて良い植え付けと高能率が得られます。田植機の点検，苗・ほ場の良い条件作りに心がけてください。
●下記の原因以外については部品の消耗等がありますので，販売店または農協（ＪＡ）にご相談ください。

不調内容	原因		処置
 連続欠株ができる。	苗	○根張りが悪い。（短冊苗が崩れる） ○苗土が乾燥している ○根渡りや根上りしている。 ○苗枠の側面や裏に土が多く付いている。 ○重粘土の苗土を使用 ○砂質土・火山灰土の苗土を使用	○濡らし方に注意 ○植付け速度を遅くする。 ○充分濡らす。 ○販売店に相談する ○根渡り苗用押出し板を使用する（注文部品） ○苗枠を洗う。 ○充分濡らす。 ○濡らし方に注意 ○植付け速度を遅くする。
	機械	○苗受に土や小石が詰まっている。 ○苗枠のセット不良 ○苗枠が破損又はソリ，歪がひど過ぎる。 ○ガイド板に小石が詰まって安全装置が働いている。（ミッションからカチカチと音がする）	○苗受をよく洗う。（P37参照） ○苗枠を確実にセットする。（P32参照） ○破損している苗枠は使用しない。 ○ガイド板に詰まった小石を取り除く。（P36参照） （エンジン停止してから行ってください。）
 欠株ができる。	苗	○根張りが悪い。（短冊苗が崩れる） ○根渡りや根上りしている。	○濡らし方に注意。 ○植付け速度を遅くする。 ○販売店に相談する。 ○根渡り苗用押出し板を使用する。（注文部品）
	機械	○コンベアーベルトや，ガイド板に土がたまっている。	○コンベアーベルト，ガイド板をよく洗う。（P37参照）

不調時の処置

不調内容	原因		処置
 植付け姿勢が悪い。 （浮苗・ころび苗）	苗	○根張りが悪い。（短冊苗が崩れる）	○濡らし方に注意 ○植付け速度を遅くする。
		○砂質土・火山灰土・重粘土の苗土を使用	○濡らし方に注意 ○植付け速度を遅くする。
		○徒長苗	○葉先を切断する。 ○植付け速度を遅くする。
	ほ場	○ほ場が軟か過ぎる。	○ほ場を硬くする。 ○植付け速度を遅くする。 ○植付け深さをやや深くする。 ○油圧感度の調節を行う。 （P31参照）
		○ほ場が硬過ぎる。	○植付け速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行う。 （P31参照）
		○ほ場に水が多すぎる。	○水を少くする。 ○植付け速度を遅くする。
		○ほ場が粘土質である。	○ほ場に水を入れる。
	機械	○苗受に土や小石が詰まっている。	○苗受をよく洗う。
		○ガイド板に泥が詰まっている。	○ガイド板をよく洗う。
		○ガイド板の変形	○修正又は交換
		○油圧感度の調節不良。フロート後部が浮いている。	○油圧感度の調節を行う。 （P31参照）
 フロート通過後に植付けた苗が倒れる。	ほ場	○ほ場が極端に軟か過ぎる。 （表土がトロトロで足跡も付かない状態）	○ほ場を硬くする。 ○植付け速度を遅くする。 ○油圧感度の調節を行う。 （P31参照）
		○ほ場が深過ぎる。（35cm以上）	○販売店に相談する。
 植傷み苗ができる。	苗	○根張りが悪い。 ○貧弱苗。	○植付け速度を遅くする。
	機械	○ガイド板に泥・異物が詰ってガイド板幅が開いている。	○泥・異物を取除く。
		○ガイド板の変形	○ガイド板の修正・交換

不調時の処置

不調内容	原因	処置
植付クラッチが切れない	○植付クラッチワイヤーが伸びている。	○植付クラッチワイヤーの調整。（P43参照）
植付部だけが動かない。	○替ギヤーの入れ忘れ。	○替ギヤーを入れる。（P29参照）
苗がなくなっても止まらない。	○アクセルレバーを手で持っている。	○必要以外はレバーから手を離す。
植付爪は動くが他は動かない。	○植付本数の切替ピンの切替不良	○切替ピンを確実に入れる。（P30参照）
サイドクラッチが切れない。	○サイドクラッチワイヤーが伸びている。	○サイドクラッチワイヤーの調整（P42参照）
油圧が作動しない。	○減速ミッションオイルの不足。	○補給。（P41参照）
フロートで泥を押す。	○ほ場が軟か過ぎる。 ○油圧感度が不適正。	○ほ場を硬くする。 ○油圧感度の調節（P31参照）
エンジンが始動しない。	○燃料が入っていない。 ○燃料コックが閉じている。 ○エンジンスイッチが「OFF」になっている。 ○主変速レバーが「中立」になっていない。 ○植付クラッチレバーが「切」になっていない。 ○燃料が古い。 ○キャブレター内の詰り。 ○点火していない。 ○エアークリーナーエレメソトが水を吸い込んでいる。 ○エンジン停止直後に再始動した。	○燃料を給油する。 ○燃料コックを「開」にする。 ○エンジンスイッチを「ON」にする。 ○主変速レバーを「中立」にする。 ○植付クラッチレバーを「切」にする。 ○新しい燃料に入れ替える。 ○販売店に相談する。 ○点火プラグの清掃又は交換。（P40参照） ○エアークリーナーエレメントを清掃する。（P39参照） ○10秒以上待って再始動する。

農作業を安全に行なうために

農林水産省より，安全に農作業に従事できるように，農業機械を使用する時の注意事項が「農作業安全基準」として定められています。
取扱説明書の内容と併せて熟読の上，事故のない楽しい農作業のためお役立てください。

第1　一般共通事項

1．適用範囲

一般共通事項は，農業機械を使用して行なう作業に従事する者が農作業の安全を確保するため注意すべき事項を示すものである。

2．就業条件

(1)安全作業の心得

農業機械を使用して行なう作業（以下「機械作業」という。）に従事する者は，機械の操作の熟練に努め，自己の安全を図るとともに，補助作業者及び他人に危害を及ぼさないように，機械を正しく運転することに努めること。

(2)就業者の条件

ア．次に該当する者は，危険を伴う機械作業に従事しないこと。

（ア）精神病者
（イ）酒気をおびた者
（ウ）若年者
（エ）未熟練者
（オ）過労・病気・薬物の影響その他の理由により，正常な運転操作ができない者

イ．はげしい作業が続く場合には特に健康に留意し，適当な休けいと睡眠をとること。
また妊娠中の者は振動を伴う機械作業に従事しないこと。

(3)特殊温湿度環境下の安全

暑熱，寒冷及び高湿の環境における作業に際しては，安全を確保するため作業時間及び方法等を充分検討すること。

3．子供に対する安全配慮

機械には，子供を同乗させないこと。また，機械には，子供を近寄らせないよう注意すること。

4．安全のための機械管理

(1)日常の点検整備

農業機械は，使用の前後に日常の点検整備を行ない，常に機械を安全な状態に保つこと。

(2)防護装置の点検

ア．機械作業に従事する時は，機械の操縦装置，制動装置，防護装置等危険防止のために必要な装置を点検整備して常に正常な機能が発揮できるようにしておくこと。

イ．機械に取り付けられた防護装置等を機械の点検整備または修理等のために取り外した場合は，必ず復元しておくこと。

(3)上げ装置の落下防止

作業機を上げた位置で点検調整等を行なう場合には，ロック装置のあるものについて，必ずこれを使用し，かつ，ロック装置の有無にかかわらず作業機について落下防止の措置を講じること。

(4)整備工具の管理

点検整備に必要な工具を適正に管理し，正しく利用すること。

5．火災・爆発の防止

(1)引火・爆発物の取り扱い

引火または爆発のおそれのある物質の貯蔵，

補給等にあたっては，その取り扱いを適正にすること。特に火気を厳禁すること。

(2)火災予防の措置

火災のおそれのある作業場所には，消化器を備え，喫煙場所を決める等，火災防止の措置を講じること。

6．服装及び保護具の使用

次の農作業に際しては，適正な服装及び保護具を用い，危険のないよう作業に従事すること。

(1)頭の傷害防止の措置

機械からの墜落及び落下物のおそれの大きい場合，交通頻繁な道路での運行の場合等では、頭部保護のために適正な保護具を用いること。

(2)巻き込まれによる傷害防止の措置

原動機若しくは動力伝動装置のある作業機または駆動する作業機を使用する場合には，衣服の一部，頭髪，手拭等が巻き込まれないように適正な帽子及び作業衣等を使用すること。

(3)足の傷害及びスリップ防止の措置

機械作業において，作業機等の落下，土礫の飛散，踏付け，踏抜き及びスリップ等のおそれのある場合は，これらの事故を防止するために適正な履物を用いること。

(4)粉じん及び有害ガスに対する措置

多量の粉じん及び有害ガスが発生する作業にあたっては，粉じん及び有害ガスによる危険防止のための適正な保護具を使用すること。

(5)農薬に対する措置

防除作業においては，呼吸器，眼，皮膚等からの農薬による傷害防止のために適正な保護具（保護衣を含む。）を使用すること。

(6)はげしい騒音に対する措置

はげしい騒音の伴う作業にあたっては，耳を保護するための適正な保護具を使用すること。

(7)保護具の取り扱い

安全保護具を常に正常な機能を有するように点検し，正しく使用すること。

第2　移動機械共通事項

1．適用範囲

移動機械共通事項は，地上を移動しながら作業する機械を使用して行なう作業に従事する者が注意すべき事項を示すものである。

2．作業前の注意事項

(1)機械の点検整備

ア．機械の点検整備を充分に行ない，その使用にあたっては，常に安全を確認すること。

イ．機械の点検整備，手入れ及び作業機の装着等は，交通の危険がなく，平担である等，安全な場所で，かつ，安全な方法で確実に行なうこと。

特に，屋内で内燃機関を運転しながら点検整備等を行なう場合は，換気に注意すること。

(2)防護装置の保全

ア．機械に取り付けられた防護装置は，常に有効に作用する状態に保っておくこと。

イ．機械の点検整備等のために防護装置を取り外した場合は，必ず復元し，その機能を充分に発揮できるようにしておくこと。

(3)悪条件下における作業

土地条件，気象条件等により機械作業に対する条件がよくない場合の作業については，実地の判断，作業方法及び装備の選択等に注意すること。

3．作業中の注意事項

(1)乗車等の禁止

ア．機械作業に際して機械には，指定の箇所

以外に他人を乗せないこと。また，指定箇所においても定員以上に乗車させないこと。

イ．非常の場合を除いて，運行または作業中の機械に飛び乗り，またはこれから飛び降りないこと。

ウ．機械作業中は作業関係者以外の者を機械に近寄らせないこと。

(2)前方及び後方の安全確認

運行中または作業中は，常に機械の周囲に注意し，安全を確認すること。特に、発進時に注意すること。

(3)転倒落下の防止

ア．傾斜地における機械作業においては機械の転倒を防ぐために速度，旋回，作業方法等に注意して運転操作を行なうこと。

イ．ほ場への出入り，溝または畦畔の横断，軟弱地の通過等に際しては，機械の転倒を防ぐために，特に注意すること。

ウ．機械の積み降ろしに際しては，機械の転倒及び落下を防ぐための適切な措置を講じ，充分注意して行なうこと。

(4)傷害の防止

ア．動力伝導装置，回転部等の危険な部分には，作業中接触しないように注意すること。

イ．刃または鋭利な突起を有する機械で作業を行なう場合は，傷害防止のために特に注意すること。

ウ．作業中に土塊・石等が飛散する作業においては，飛散物によって傷害が起こらないように注意すること。

(5)夜間における安全

夜間作業においては，特に安全に注意し，適確な照明を行なうこと。

夜間給油を行なう場合は，裸火等を使用せず，安全な照明のもとで安全かつ確実に給油すること。

(6)作業中の点検調整等における安全措置

機械の点検調整は，必ず原動機を止め，安全な状態で行なうこと。

休けい等で機械を離れる場合は，機械を安定した場所におき，作業機を下ろし，かつ安全な停止状態を保つように注意すること。やむを得ず傾斜地に機械を置く場合は，更に車止めを施して，自然発車等の危険が生じないよう注意すること。

4．終業後の注意事項

(1)終業後の点検整備

作業終業後は，必ず次の作業のため機械の点検整備を行なうこと。

(2)作業機の取り外し

作業機の取り外しは，平担な場所等の安全な場所で，かつ，安全な方法で確実に行なうこと。

特に夜間の作業機の取り外しは，安全で適切な照明を用い，安全に留意して行なうこと。

(3)機械の安全管理

作業終了後は，作業機は外し，または下ろし，機械を安定した場所に置き，かつ，安全な停止状態を保つように注意すること。

また，危険と思われる機械は，格納庫に保管するかおおいをかけるなどして安全な状態に置くこと。

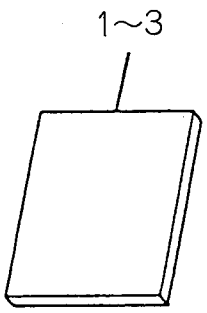
サービス資料

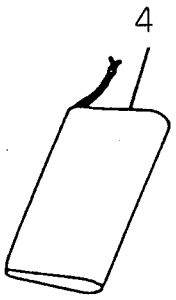
■主要諸元

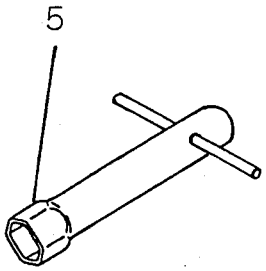
型式名			みのる　L－2
区分			共立　L－20
機体寸法	全長	(mm)	2100
	全幅	(mm)	860
	全高	(mm)	1080
機体質量（重量）		(kg)	115
エンジン	型式名		ロビンEH092D
	種類		空冷４サイクルガソリン
	総排気量	(cc{ℓ})	86{0.086}
	出力／回転速度	(PS{KW}／rpm)	2.0 {1.5} ／3600（最大 2.8 {2.1} ／4200）
	使用燃料		自動車用無鉛ガソリン
	燃料タンク容量	(ℓ)	2.3
	始動方式		リコイルスターター式
走行部	車輪上下調節		自動油圧式
	車輪 種類		ゴムラグ車輪
	車輪 外径	(mm)	680
	変速段数	(段)	前進２（植付1）　後進１
植付部	植付方式		回転式強制植付け
	植付条数	(条)	2
	植付条間	(cm)	33
	植付株間	(cm)	14,16,18,20,22,24　(スリップ率10%)
	植付株数	(株／3.3㎡)	72,63,56,50,45,41　(スリップ率10%)
	植付深さ	(cm)	1.5 ～ 3.5（3段）
	一株本数調節量		横送り12，15mm／株
苗の条件	苗の種類		短冊苗
	葉令・草丈		成苗3.5~5.5葉，8~25cm
苗とう載数		(箱)	4
作業速度		(m／s)	0.35~0.62(スリップ率10%)
作業能率（計算値）		(分／10a)	50~90
型式検査合格番号			――
安全鑑定番号			１９１５４

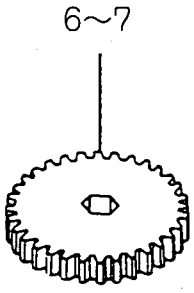
■標準付属品

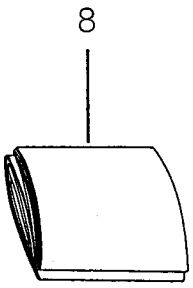
No.	部　品　名	個 数
1	取扱説明書	1
2	保証書	1
3	安全運転説明確認票	1
4	工具袋	1
5	アクセサリーツールキット	1
6	替ギヤー 16	1
7	替ギヤー 18	1
8	本機シートカバー	1



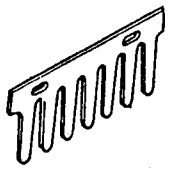
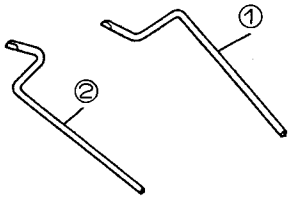
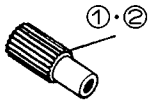
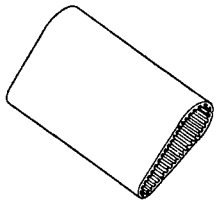
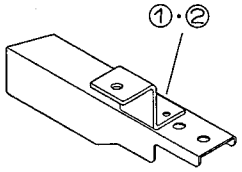
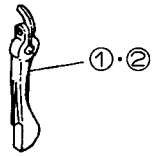
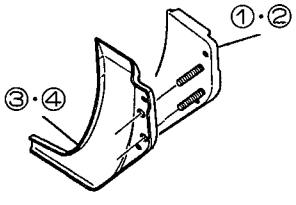


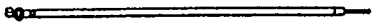
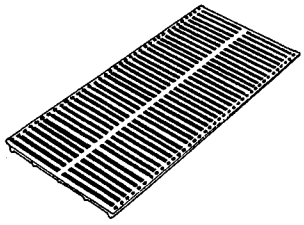
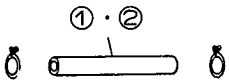






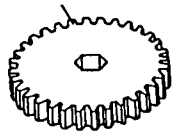
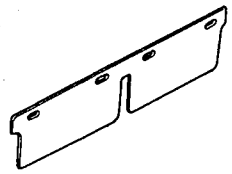
■主な消耗部品一覧表

形　状	品　名	部品番号	備　考
	押出し板	LT−3106(1)	摩耗した場合交換
	①縦送り爪（左） ②縦送り爪（右）	LT−3203(2)L LT−3203(2)R	摩耗した場合交換
	①横送りローラー（左） ②横送りローラー（右）	LT−3501L LT−3501R	摩耗した場合交換
	タイミングベルト	LTH−3513(1)	破損又は伸びた場合交換
	①土落し板(左)CP ②土落し板(右)CP	L2−3507L L2−3507R	摩耗した場合交換
	①植付爪(左)AY ②植付爪(右)AY	L2−4202(2)L AY L2−4202(2)R AY	変形又は摩耗した場合交換
	①ガイド板内(左)CP ②ガイド板内(右)CP ③ガイド板外(左) ④ガイド板外(右)	LR4−25022L LR4−25022R LR4−25023L LR4−25023R	変形又は摩耗した場合交換

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　　考
	各ワイヤー	――――――	作動が重くなった場合交換
	スパークプラグ	065−01403−70	市販品規格 NGK BM4A
	苗枠	――――――	角穴が破損した場合交換
	①燃料パイプ上AY ②燃料パイプ275AY	L20−7104AY X2−7106AY	破損時または２年ごとに交換

■注文部品の紹介

オプションとして下記のものを準備してありますので，用途に応じてご購入の上ご利用ください。ご購入に当たっては販売店にご相談の上，ご使用ください。なお，取り付けは必ず販売店・農協（ＪＡ）で行なってください。

形　　状	品　　名	部 品 番 号	備　　考
①･②･③･④･⑤･⑥･⑦･⑧･⑨ 	①替ギヤー2 ②替ギヤー3 ③替ギヤー4 ④替ギヤー5 ⑤替ギヤー6 ⑥替ギヤー7 ⑦替ギヤー8 ⑧替ギヤー10 ⑨替ギヤー19	LT6−1412(1) LT6−1415(1) LT6−9301 LT6−9303 LT6−9305 LT6−9306 LT6−9307 LTD3−8201 X4−8208	特殊株間用 (29ページ参照)
	押出し板(根渡対策用)	LT−9501(1)	根渡り苗対応用

索引

	項目	ページ
あ	アクセルレバー	16
	畦ぎわ植え	34
	畦越え時の注意	5
	アユミ板を使って圃場の出入り	5
	アユミ板の条件	6, 24
	安全カバー類の装着確認	2
	安全クラッチが作動したとき	36
	安全のポイント	1
	安全表示ラベルについて	9
い	板バネ	43
	移動のしかた	24
	異物の噛込み	36
う	植傷み苗	14, 33
	植付株数	29
	植付株間の決めかた	29
	植付クラッチレバー	17
	植付クラッチワイヤーの点検	43
	植付爪	36
	植付深さ調節レバー	18, 31
	植付深さの調節のしかた	31
	植付部の水洗い	14, 37
	植付本数の調節のしかた	30
	植付ミッションオイルの給油	41
	運転姿勢	4
	運転者の条件	1
	運搬する時	6
	運搬中の固定のしかた	25
え	エアークリーナーエレメント	39
	エアークリーナーの清掃	39
	遠心クラッチ	16
	エンジンオイルの交換	39
	エンジンオイルの点検・給油	20
	エンジンスイッチ	16
	エンジンの始動	3, 22
	エンジンの停止	22
	エンジン番号	10
お	オイルレベルゲージ	20, 39
	押出しバネ	13, 21
	押出し板	14, 37

	項目	ページ
か	改造厳禁	8
	回転部	5, 7
	ガイド板	11,14,36,37
	替ギヤー	29
	替ギヤーカバー	29
	火気厳禁	2, 20
	格納のしかた	45
	各部の名称	15
	火山灰土	12, 28
	型式マーク	10
	傾き調節レバー	18
	過熱部	5, 7
	カバー類は元通りに	8
	株間の調節のしかた	29
	感知バネ	31
き	ギヤーオイル90#	38, 41, 42
	キャブレター	44
	急発進は危険	3
	切替ピン	30
く	区分	10
	クラッチアーム	43
け	傾斜地移動	4
	減速ミッションオイルの給油	41
こ	コンベアーベルト	12,14,32,37
さ	サービスネット	10
	サイドクラッチレバー	4, 6, 18
	サイドクラッチワイヤーの点検	42
	作業開始時の合図	5
	砂質土	12, 28
し	シートカバー	8, 45
	自走禁止	4
	室内換気	3
	車輪ケースオイルの給油	42
	重粘土	12, 28
	主変速レバー	3, 16

索　　引

	項　　目	ページ
	主要諸元	52
	使用上のポイント	11
	使用苗枠数	29
	商品の保証	10
	消耗部品一覧表	54
	代かき	27
す	スタートと植え進みかた	32
せ	製造番号	10
	旋回のしかた	34
た	体調について	1
	田植機から離れる時は	4
	縦送り爪	32，35
	縦送りバネ	13，21
ち	注文部品一覧表	56
	注油箇所	13，21
	チョークノブ	16
	長期格納	44
て	定期点検	7，38
	停止のしかた	23
	適正な工具	7
	点火プラグ（スパークプラグ）の清掃	40
	点検整備一覧表	38
	点検窓	41
と	トラックへの積み・降ろし	6，24
	ドラム	12，36
	取扱いについて	12
	ドレンネジ	20, 39, 41

	項　　目	ページ
な	苗受	11,14,32,37
	苗セット	13
	苗土	11，28
	苗について	11
	苗の準備	28
	苗のせ台	14, 32, 37
	苗の補給のしかた	35
	苗枠セットレバー	13, 18, 32
に	日常点検について	2
ぬ	濡らしかた	11，28
ね	根上り	12，28
	根張り	11, 14, 28
	根渡り	12，28
	燃料カップの清掃	40
	燃料コック	22
	燃料タンク	20
	燃料の給油	2，20
	燃料の抜取り	8，44
	燃料補給時は火気厳	2
	燃料ホースの点検・交換	40
の	農作業を安全に行うために	49
	残り苗の取り出しかた	35
は	排気ガス中毒	3
	排出ネジ	44
	発進のしかた	23
	はね出し板	32
	ハンドル高さの調節のしかた	31
ひ	人に田植機を貸す時は	2
	1枠株数	29
	標準付属品	53
ふ	服装について	1
	不調時の処置	46
	太植え	29

索　引

	項目	ページ
へ		
ほ	補修用部品の供給年限について	10
	ほ場からの出かた	26
	ほ場の準備	27
	ほ場への入りかた	26
	細植え	29
ま	枕地のとりかた	34
	マフラー	3, 4, 5, 7
	周りの人に注意（特に子供）	5
み		
む	無理のない作業計画で	2
め		
も		
や	夜間作業の禁止	5
ゆ	油圧感度の調節のしかた	31
よ	予備苗台	32
	予備苗台上の調節のしかた	30
ら		
り	リコイルスターターノブ	22
る		
れ	レバー関係の取扱い	16
ろ	路肩に注意	4
	ロックアーム	13, 21
わ		

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。
市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や機械の寿命を短くする原因になります。

純正アタッチメントを使いましょう

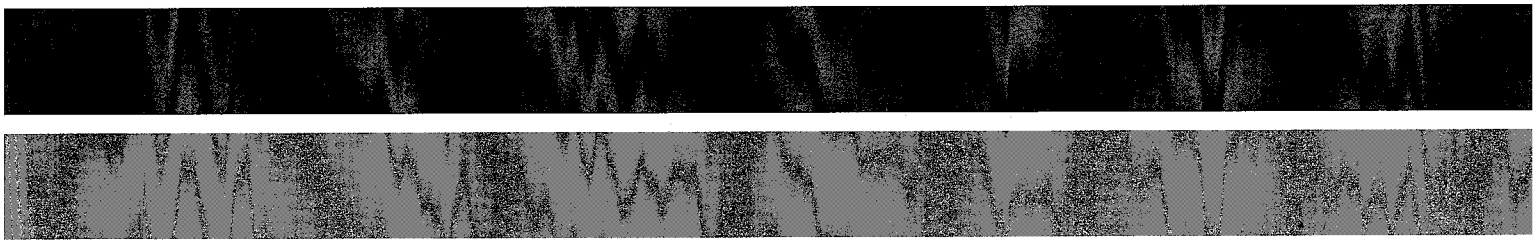
純正アタッチメントは、本機に一番よくマッチするように研究され、徹底した品質管理のもとで生産・出荷しておりますので、安心して使っていただけます。
市販類似品をお使いになりますと、作業能率の低下や機械の寿命を短くする原因になります。

国内排出ガス自主規制について

このラベルは、(社)日本陸用内燃機関協会の小形汎用エンジン排出ガス自主規制に適合していることを示しています。

(社)日本陸用内燃機関協会:陸用エンジン業界の健全な発展と最新技術の開発を図り、併せて関連する諸製造業界の発展にも寄与することを目的とする団体で、環境保全の重要性を考慮して小形汎用エンジンの排出ガス浄化のため自主規制に取り組んでいます。

自主規制の内容については、下記のホームページにてご覧頂けます。
http://www.lema.or.jp



株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

(C) 2009 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。